白百合女子大学キリスト教文化研究論集 第4号 2003年
pp. 92-142

宗教性測定尺度の文化間比較
― 使用された宗教用語の分析を通して ―

西　脇　　良

はじめに

現代一般人の宗教意識に関する調査研究では，測定尺度を構成したり質問項目を考案するなどして，質問紙調査を実施することが多い．調査では，当然のことながら，回答者が容易に理解できるような質問項目が用意される．さらにいえば，回答者の宗教性を測定するためにどのような内容を訊ねればもっとも効果的であるか，という視点から考案される．したがって，或る宗教文化圏では，当該宗教文化圏に適した質問項目が準備されているであろうことは，容易に想像がつく．つまり宗教性測定尺度は，大局的にみた場合，回答者の宗教文化を背負っているわけであり，この意味で文化的バイアスを免れることはできない．しかしながらこれまで，このような視点での，すなわち“宗教文化圏に組み込まれた宗教性測定尺度”とでもいうべき視点からの分析および考察は，ほとんどなされてこなかった．そこで，本研究では，英語圏で使用されている測定尺度と，日本で考案された測定尺度（または質問項目群）とを分析資料とし，両測定尺度の文化間比較をおこなって，その特徴を浮き彫りにすることにしたい．

各宗教文化圏における宗教性測定尺度の特徴をとらえるための手法の1つとして，尺度で採用されている質問項目の文章中の語句，とりわけ宗教用語（ここでは，“宗教に関連した用語”の意味）に注目する，という方法が考えられる．例えば，“あなたは宗教を信じていますか”という質問項目を想定してみると，この文章を“宗教意識”に関する項目たらしめているの

は, さしあたり, “宗教” の語と “信じる” の語であろう. とすれば, 宗教性測定尺度で使用されているこの種の宗教用語を分析すれば, 一定の範囲内ではあるにせよ, 大まかな特徴を把握することが可能である.

本研究では, これらの宗教用語に加え, 自然を宗教的にどうみるかという宗教的自然観の視点から, 自然に関連した用語も分析対象に加えることにしたい. 宗教文化における宗教的自然観の重要性は, 研究者の間でもたびたび指摘されるところである (金児暁嗣, 1997 ; 西沢悟, 1998 ; 山縣喜代, 1999). どの宗教文化においても自然は, それが人間の生存に深く関わっているだけに, 重要な存在である. 宗教文化の根底をなすといっても過言ではない. しかしその捉え方は文化圏によってかなり異なっている. そしてその捉え方の違いは, 各文化圏における宗教性の重要な特徴ともなっている. このことを, 宗教性測定尺度の分析を通して確かめることにしたい. 具体的には, “nature” ないし “自然” の語が, 宗教性測定尺度においてどの程度使用されており, どのような文脈で使用されているのか, という点に着目してゆく.

本小論では, まず第 1 に, 近年出版された宗教性測定尺度集 (英語圏, 主として米国で使用される尺度) の紹介をおこない, その後, 収録された測定尺度全体について, 質問項目内容の分析を行う. 分析では, 宗教用語 (および自然に関連した語) を数え, 全項目数に占める使用率や, 全尺度数に占める使用率を求め, 特徴を明らかにする (1.). 第 2 に, 日本で作成された宗教性測定尺度 (および質問項目) についても, 可能な範囲で収集し, 同様の分析をおこなう (2.). そして第 3 に, 分析結果にもとづいて, 英語圏の測定尺度と日本の測定尺度との比較検討を行うこととする (3.).

1. 英語圏の宗教性測定尺度の分析

英語圏の宗教心理研究分野では, 近年, 大規模な宗教性測定尺度の収集お

よびレビューが行われ，研究史上重要な展開をみせている．Hill & Hood (eds., 1999) の“Measures of Religiosity”(Alabama: Religious Education Press) がそれである．この尺度集は，“研究者が，既存の尺度を知らないままに新たな尺度を構成するという無駄を省くため”(p.3) に編纂されたものである．というのも，宗教心理学の初期に作成された測定尺度の多くが，現在入手困難であるために，近年の宗教心理学の研究努力の大半が，新たな尺度の構成に費やされてきた，という状況があったからである．その意味で尺度集の出版は，宗教心理研究において画期的な出来事であったといえる．

この尺度集には，宗教心理学の各研究分野ごとに整理された測定尺度が，合計126本収められている．英語圏とくに米国の宗教心理学の研究動向全般をカバーしており，資料として適切であると考えられる．そこで本項では，この尺度集の内容を具体的な分析対象として用いることにする．まず，この尺度集の内容を概観し(1.1.)，その後に，尺度で使用されている宗教用語の分析をおこなうことにする(1.2.以降)．

1.1. 尺度集の概観

全体の構成　宗教性測定尺度集である“Measures of Religiosity”(Hill & Hood, eds. 1999) は，宗教心理学の各研究分野に相当する全16章から成る．まず，この章構成を手がかりとして，尺度集の全体構成を概観しておきたい．

第1章は，“宗教的信念と実践”(以下，“信念･実践”) と題され，“聖なるもの，神的なもの”についての理解に関わってもたれる信念，およびそれに伴う宗教的行動，を問う尺度が21本収録されている．第2章は，“宗教的態度”(以下，“態度”) と題され，宗教 (主としてキリスト教) に対する評価的次元を測定する尺度が13本収録されている．肯定的･否定的側面だけでなく，懐疑的評価に関する尺度も掲載されている．第3章は，“宗教志向性”

(以下, “志向性”) と題され, 或る宗教に関与する人々が, その宗教にどのような目的で宗教に接しているのかを測定する尺度が 11 本収録されている. よく知られた, Allport & Ross の “外発的-内発的宗教志向性” 概念にもとづく尺度は, 本章に入れられている. 第 4 章は, “宗教性発達” (以下, “発達”) と題され, 主として青年期以降の宗教性発達を測定する尺度が 8 本収録されている. 発達といっても, うち 6 尺度までがキリスト教信徒としての成熟度を測定するものである. また, 特定宗教から切り離した “信仰” 概念の構築で知られる Fowler の “信仰発達面接” は, 本章に含まれている. 第 5 章は, “宗教的コミットメントおよび関与” (以下, “コミットメント”) と題され, 日常生活場面での宗教への関与の度合いを測定する尺度が4本収録されている. 第 6 章は, “宗教的経験” と題され, 主として宗教的経験の認知的側面を測定する尺度が 3 本収録されている. James が報告した事例を質問文としたことで知られる, Hood の “宗教的経験エピソード尺度” (REEM) は, 本章に入れられている. 第 7 章は, “宗教的・道徳的価値ないし人格特性” (以下, “価値・人格特性”) と題され, 宗教的信仰が個人の価値体系や人格特性に影響をもたらしていることを前提に, これらを測定する尺度が 6 本収録されている. 第 8 章は, “宗教性の多次元尺度” (以下, “多次元性”) と題され, 宗教経験を多次元的に (主として, 認知次元; 感情次元; 行動次元; 個人的次元; 社会的次元など) 捉える尺度が 15 本収録されている. Glock & Stark の多次元尺度 (“宗教的コミットメントの諸次元” 尺度) は, 本章に掲載されている. 第 9 章は, “宗教的コーピングおよび問題解決” (以下, “コーピング”) と題され, 或るストレス反応に対してなされる様々な宗教的対処方略に関する測定尺度が 3 本収録されている. 第 10 章は, “霊性および神秘主義” (以下, “霊性・神秘主義”) と題され, 近年の世俗化現象に伴い, 本来の宗教的文脈から派生して (伝統宗教的色彩を抜きにして) 使用されはじめた “霊性” (spirituality) 概念, および神秘主義に焦点を当てた尺度が

6本収録されている．といっても，本章で紹介されている尺度の殆どは，究極的実在概念として単数形 God を用いるなど，ユダヤ・キリスト教文脈で通用する質問項目が含まれている．第11章は，“神概念”と題され，人々のもつ“神”に対するイメージを測定する尺度が7本収録されている．複数の形容詞や語句を提示して訊ねる尺度や，絵画を提示して訊ねる尺度なども含まれている．第12章は，“宗教的ファンダメンタリズム”（以下，“ファンダメンタリズム”）と題されている．ここで“ファンダメンタリズム”とは，或る宗教的真理が悪の力によって挑戦され続けているからこれを克服しなければならないという宗教的信念，の意味で使用されている．じっさいの質問項目には，キリスト教ファンダメンタリズムを反映して，聖書の字義的解釈に関するものやキリストの再臨に関するものも含まれている．収録尺度数は5本である．第13章は，“死観ないし死後の生観”（以下，“死（後）観”）と題され，死への態度や不安の度合い，さらに死後の生について訊ねる尺度が5本収録されている．なかでも Templer の“死の不安尺度”（DAS）はよく知られており，日本でもたびたび使用されている．第14章は，“神の介入ないし宗教的原因帰属”（以下 “原因帰属”）と題され，或る出来事に対する通常の自然的・因果論的説明が困難であるときに発動するとされる，宗教的原因帰属（神概念を用いて出来事を説明）を測定する尺度が3本収録されている．第15章は，“赦し”と題され，宗教的な赦し（神による人間の赦し，或いは，他者を赦す場合の神の助力の必要性など）を測定する尺度が2本収録されている．第16章は，“組織的宗教”と題され，所属する宗教団体（主としてキリスト教）への態度，教会出席，共同体意識などを測定する尺度が5本収録されている．

なお本書には，さらに第17章（“関連概念”）が設けられ，宗教性に関連すると考えられるその他の測定尺度が9本収録されている．例えば，統制の位置；権威主義；人生の意味；自己実現；トランスパーソナル意識，など

に関する尺度である.

これら16章の区分は, 収録尺度がそれぞれ独立し峻別されるべきものとして仕分けされているのではなく, 各尺度は相互に関連している. 例えば第1章で扱われる“信念·実践”は, 第8章の“多次元性”の一部と重なっている. しかしながら, 各章が, 宗教心理学における各研究トピックごとにまとめられていることは確かであり (Hill & Hood, p.5), これらの章区分をもって, 現代の宗教心理学における事実上の研究分野とみなしても差し支えない, と考えられる.

レビュー収録された尺度数は126で, それらのほとんどが質問紙法によるものであるが, 面接法による測定（尺度数2）や絵画提示法による測定（尺度数1）も含まれている. 各尺度の作成年代は, 1929年から1997年までである. 各尺度のレビュー方法としては, (1) 構成概念；(2) 実際の尺度構成；(3) 調査時の留意事項；(4) 標準化；(5) 信頼性；(6) 妥当性；(7) 典拠文献；(8) 後続研究文献；(9) 引用文献；(10) 質問項目, の10項目にわたって, 分担執筆されている.

尺度数の年代的推移　次に, 分野別の尺度数の推移を年代順にまとめた (Table 1).

まず, 横集計をみると, “信念·実践”を問う尺度が最も多く, 次いで“多次元性”, “態度”, “志向性”の尺度が多く, これらで全体の半数を占めている. 英語圏における宗教心理研究が, 主として宗教的信念, 宗教的行動, 既存の宗教に対する態度, といったテーマを扱ってきたことが分かる. 次に, 縦集計をみると, 1970年代前半, および1980年代前半以降に増加していることが分かる. なお, 1970年代後半ではやや減少しているが, 研究分野では新たに2つの分野が加わっており, 研究が後退したことを意味するものではない.

次に各分野の年代的推移をみると, 最初に“組織的宗教”, “信念·実践”

Table 1　年代別にみた研究分野ごと尺度数の推移

研究分野	1949年以前	1950年代	1960-64年	1965-69年	1970-74年	1975-79年	1980-84年	1985-89年	1990-94年	1995-97年	横集計
組織的宗教	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	5
信念・実践	3	1	2	4	4	2	1	3	1	1	22
多次元性		2	2	2	3	4	1	1	0	0	15
態度		1	2	0	1	0	2	3	4	0	13
ファンダメンタリズム		1	0	1	0	0	1	0	1	1	5
志向性				2	2	0	1	2	4	1	12
神概念				2	1	1	1	0	2	0	7
価値・人格特性				1	1	0	1	1	2	0	6
死(後)観					3	1	1	0	0	0	5
宗教的経験					1	1	1	0	0	0	3
コミットメント						1	0	1	1	1	4
霊性・神秘主義						1	2	0	2	1	6
発達							4	3	1	0	8
原因帰属							2	0	0	1	3
コーピング								1	1	1	3
赦し								1	0	1	2
(関連尺度)		1	1	0	2	0	0	3	1	1	9
縦集計	5	7	7	12	18	11	20	19	20	9	128
研究分野数	2	6	4	6	9	7	13	10	11	9	

(資料：Hill & Hood (eds.,1999)をもとに作成．尺度の数え方により，ここでは，128尺度となっている.)

の測定尺度が登場し，以降，1960年代前半を除き，1980年代後半に至るまで，次々と新たな研究分野が拡大し，年代を追うごとに研究分野数も増加傾向にあることが分かる．このうち，もっともコンスタントに尺度が作成され続けた研究分野は“信念・実践”であり，次いで“多次元性”，“態度”，“志向性”が続いている．また，比較的新しい研究分野は“コーピング”と“赦し”であり，ともに1980年代後半に尺度が作成されている．なお，1990年以降には新たな研究分野での尺度はみられない．

1.2. 目的と方法

次に，Hill & Hood (eds., 1999) の宗教性測定尺度集に収められた尺度から，分析が可能と考えられた110尺度を対象に，質問項目中に用いられた宗教用語についての分析を行う．具体的には，質問項目中に含まれている宗教用語の個数を数えることによって質問項目全体の特徴を分析する．

目的

(1) 質問項目全体, および尺度全体に対する, 宗教用語の使用比率を調べ, 全体的な特徴を明らかにする.

(2) 宗教的自然観の観点から, 自然に関連した用語の使用比率を調べ, その用語が用いられる具体的な質問項目についての質的検討を行う.

方法 全126尺度から, 面接法, 絵画提示法, 形容詞提示法などの尺度を除いた110尺度を選び, 分析対象とした. なお, 分析対象となった尺度のうち2尺度は, 作成年代の異なる別個の尺度として分類可能であったため, これらをそれぞれ1本と数えた (全112尺度と数えた). 各測定尺度の質問項目は, スキャナを用いてコンピュータの表計算ソフトに読み込み, 分析が可能となるよう処理した. 全質問文および回答欄から, 質問文に対する賛否や頻度を訊ねる回答項目 (量的な選択肢) は除き, 複数の選択肢から1個以上の回答を選択する回答項目 (質的な選択肢) は含めるようにした. 質問文1個を1アイテムと数え, 質的な選択肢を含む回答項目についても, 1アイテム, と数えた. こうして, 全112尺度から4,540アイテムを分析対象として確定した.

宗教用語の選択にあたっては, まずアイテム全体を通覧し, とくに複数の尺度で繰り返し使用されている用語を中心に拾い上げた. そしてこれらを大まかなカテゴリーに分類し, さらに各カテゴリー内での下位分類を行った. 下位分類のまとめ方については, 類義語であると考えられたり, 対語と考えられたりするものを集めた. こうして, 分析対象となる宗教用語を11カテゴリーにまとめた. 各宗教用語は, 単語の名詞形を軸に, 表計算ソフトの検索機能を使用して収集したが, 形容詞形や動詞形が考えられる場合には, これについても検索し, 該当する単語がある場合にはこれも同一カテゴリーに含めた (ただし, religious の語については, これが形容する語の範囲が多いため, religion には含めないこととした).

1.3. 結果と考察ー全体的特徴

宗教用語の個数および比率　分析対象となった112尺度（4,540アイテム）に対する，各宗教用語の個数および比率は，Table 2 に示す通りとなった．

Table 2 の左端に宗教用語の11カテゴリー（A－K）を示し，その右横に下位カテゴリーを示した．その右横に，全4,540アイテムでみた場合と，全112尺度でみた場合における，宗教用語の比率を，単語ごと・下位カテゴリーごとに分けて表示した．全アイテムに占める比率は，宗教用語が全体としてどの程度使用されているかの度合いを示し，全尺度に占める比率は，宗教用語が全尺度において採用されている度合いを示している．

宗教的存在概念(A)には，God, being(s), spirit などのほか，存在概念というよりは勢力としての概念(force, power)や，(ultimate) reality など，何らかの究極的概念として用いられている語も含めた．また，キリスト教の三位一体教義で使用される表現語(A-6)も含めた．信仰(B)には，対応する英語 believe と faith を中心に数えた．教義(C)には，宗教教義のなかで基本的かつ比較的使用頻度の高い語を数えた．sin と grace (C-1), heaven と hell (C-4) は，対語として下位分類にまとめてある．聖典(D)には，旧新約聖書を表す語（D-1)と，一般的な宗教的書物を指す語(D-2)とを分けて数えた．宗教的人物(E)では，キリスト教における Jesus (Chrsit)の位置づけを考慮し，他の人物とは分けて数えた．E-2の“(聖書登場人物)”とは，例えば Moses, Daniel, Samuel (旧約聖書) や Paul, Peter (新約聖書) などであり，“(キリスト教人物)”とは，例えば，Augustine, Aquinas, Calvin などである．儀礼(F)には，儀礼参加を意味する表現(F-4)も含めた．宗教的経験(G)では，pray と meditation を1つの下位分類にまとめた．組織的宗教(H)における Church (H-2)は，宗教施設や儀礼の場として使用される場合(F-4)を除いて数えた．synagogue, temple (H-4)は，宗教施設とも考えられるが，具体的に

Table 2　英語圏の宗教性測定尺度にみられる宗教用語の使用比率

(1/3)

上位カテゴリー	下位カテゴリー	宗教用語 a)	全アイテム (n=4,540)に占める比率(%)	全尺度 (n=112)に占める比率(%)	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全ｱｲﾃﾑに対する比率	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全尺度に対する比率
A 宗教的存在概念						
	A- 1	God	21.21	83.9		
		gods	0.02	0.9	21.21	83.9
	A- 2	being(s)	0.51	14.3		
		the Devine	0.15	5.4	0.66	18.8
	A- 3	force	0.46	10.7		
		power	0.46	11.6		
		reality	0.13	4.5	0.99	17.9
	A- 4	spirit	0.37	6.3		
		soul	0.31	8.0	0.64	13.4
	A- 5	devil	0.29	10.7		
		satan	0.15	4.5		
		angel	0.11	3.6	0.53	17.0
	A- 6	Son	0.46	14.3		
		Holy Spirit(Ghost)	0.46	13.4		
		Father	0.31	10.7	1.04	25.9
B 信仰						
	B- 1	believe(religious belief)	11.37	70.5	–	–
	B- 2	(religious)faith	3.48	42.0	–	–
C 教義						
	C- 1	sin	2.22	29.5		
		grace("say grace at meals"を除く)	0.15	6.3	2.38	31.3
	C- 2	Ten commandments(the Commandments)	0.11	3.6	–	–
	C- 3	salvation	0.97	11.6	–	–
	C- 4	heaven	0.59	19.6		
		hell	0.59	19.6	1.08	29.5
D 聖典						
	D- 1	the Bible	3.68	47.3		
		scriptures	1.17	15.2		
		the Word	0.77	22.3		
		the Old(New)Testament	0.62	8.9		
		the Gospels	0.26	8.0	5.90	54.5
	D- 2	religious literature(writings,books)	0.18	7.1	–	–
E 宗教的人物						
	E- 1	Jesus(Christ)	4.41	41.1	–	–
	E- 2	(聖書登場人物.固有名の合計.)	1.34	8.9		
		prophet	0.35	11.6		
		(ｷﾘｽﾄ教人物.固有名の合計.)	0.35	2.7		
		disciple(apostole)	0.20	4.5		
		Mary	0.09	3.6	2.18	19.6
	E- 3	Buddha	0.02	0.9	–	–
F 儀礼						
	F- 1	(Holy)Communion	0.26	8.9		
		Mass	0.15	1.8		
		Lord's Supper	0.09	3.6		
		Eucharist	0.07	2.7	0.42	9.8

上位カテゴリー	下位カテゴリー	宗教用語 a)	全アイテム(n=4,540)に占める比率(%)	全尺度(n=112)に占める比率(%)	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全ｱｲﾃﾑに対する比率	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全尺度に対する比率
	F- 2	Christmas	0.07	2.7		
		Easter	0.04	1.8	0.09	3.6
	F- 3	worship	0.86	16.1		
		religious service	0.55	10.7		
		ritual	0.13	5.4	1.50	25.9
	F- 4	Church going(attendance)	1.52	32.1		
		attend worship(services)	0.20	5.4	1.67	34.8
G 宗教的経験						
	G- 1	religious experience	0.31	8.0	–	–
	G- 2	pray	4.36	54.5		
		meditation	0.35	14.3	4.54	55.4
H 組織的宗教						
	H- 1	Christianity	0.18	5.4	–	–
	H- 2	Church(F-4を除く)	9.34	44.6	–	–
	H- 3	Jewish(religion)	0.13	3.6		
		Muslim	0.02	0.9		
		Hindu(religion)	0.02	0.9		
		Buddhism	0.02	0.9	0.18	4.5
	H- 4	synagogue	0.20	3.6		
		temple	0.20	2.7	0.37	5.4
	H- 5	religion	5.29	52.7	–	–
	H- 6	congregation	0.42	6.3		
		religious group	0.33	1.8		
		religious community	0.33	8.9		
		riligious organization	0.18	3.6	1.21	14.3
I 宗教成員						
	I- 1	believer	0.11	4.5		
		atheist	0.07	2.7		
		unbeliever	0.02	0.9	0.20	8.0
	I- 2	christian(名詞)	1.41	18.8		
		non-christian	0.20	4.5	1.61	23.2
	I- 3	(church)leader	0.84	12.5		
		minister	0.40	8.0		
		priest	0.33	7.1		
		clergy	0.13	5.4		
		nun	0.09	0.9	1.65	21.4
	I- 4	religious preference (affiliation,denomination)	0.35	4.5	–	–
J その他						
	J- 1	christian(形容詞)	0.93	11.6	–	–
	J- 2	Sunday School	0.20	7.1		
		religious education	0.18	4.5	0.37	11.6
	J- 3	religious(上記以外での使用)	2.89	45.5	–	–
	J- 4	science	0.77	15.2	–	–
	J- 5	mystery	0.07	2.7	–	–
	J- 6	miracles(in bible)	0.95	24.1	–	–

(3/3)

上位カテゴリー	下位カテゴリー	宗教用語 a)	全アイテム (n=4,540)に占める比率(%)	全尺度 (n=112)に占める比率(%)	下位カテゴリー集計 b) 全アイテムに対する比率	下位カテゴリー集計 b) 全尺度に対する比率
K 自然関連語						
	K- 1	nature c)	0.53	12.5		
		("nature"以外の自然関連語)	0.26	8.0	0.75	16.1
	K- 2	universe d)	0.51	10.7		
		space	0.02	0.9	0.53	11.6
	K- 3	creation	0.40	12.5		
		creature	0.07	1.8	0.46	13.4
	K- 4	supernatural	0.62	11.6	–	–

a) 主として名詞形を掲載しているが,形容詞形や動詞形などがある場合はそれも含めた(e.g. sinful,biblical).
b) 同じアイテム(ないし尺度)に2個以上の単語がある場合は,それらを1個と数えた.
c) "本性,本質"の意味で使用されている場合を除いた.
d) "全世界,普遍的な"の意味で使用されている場合を除いた.
資料:Hill & Hood(eds.,1999)をもとに作成.

synagogue-going, temple worship などの表現はみられなかったので, ここに含めた. また, 名詞 religion(H-5) は, "方法" でも述べた通り, 例外的に形容詞 religious とは別にし, それ自体として数え, ここに含めた. 宗教成員(I) では, キリスト教で使用される表現(I-2, I-3) のほか, より一般的な表現である believer, 対語である atheist なども含めた. 下位分類は, キリスト教に固有の表現であるか一般的な表現であるかによって分類されている. また, アイテムにはキリスト教流派を示す固有名詞がみられたが, ここではその固有名詞を数えるのではなく, preference, affiliation, denomination の語が数えられている.

その他(J) には, A から I には分類しにくいと思われた宗教用語が一括して分類されている. Christian (J-1) は, 形容詞として使用されているものを数えた. また, religious (J-3) は, A から I ですでに数えた用語(B-1の religious belief など) 以外で使用されているもののみを数えた. science (J-4) は宗教用語ではないが, 一般に, 宗教性測定尺度では科学と宗教との関係を問う質問項目が多いため, とくに数えることにした.

自然関連語(K) については, nature (natural) のほか, 具体的な自然物や自然現象を指す語(animal, sky, sun, star など) も数えた. nature が "本質, 本性"

の意味で使用されている場合は，数えなかった．この他，ユダヤ・キリスト教文化圏を考慮し，自然関連語として，creation（creature）の語も数えた．さらに，universe, space, および supernatural の語も，自然関連語に含め，数えることとした(注1)．

使用比率の高い宗教用語　次に，使用比率の高かった（上位10位まで）宗教用語を，下位カテゴリーごとに示した（Table 3）．

宗教的存在概念カテゴリーであるA-1（God, gods）の全アイテムに対する使用比率が最も高く，次いで，信仰カテゴリーであるB-1（believe），組織的宗教カテゴリーであるH-2（Church），聖典カテゴリーであるD-1（the Bible, scripture, gospels など），組織的宗教カテゴリーであるH-5（religion），宗教的経験カテゴリーであるG-2（pray, meditation）などの順位となった．また，全尺度に対する使用比率をみても，A-1（God, gods）が最も高く，次いで，B-1（believe），G-2（pray, meditation），D-1（the Bible, scripture, gospels など），H-5（religion），その他カテゴリーであるJ-3（religious）などの順位となった．

以上の分析により，英語圏の宗教性測定尺度における質問項目の全体的特徴として，“神，信じる（信仰），宗教，祈る（祈り）”といった用語に関連した質問内容が多い，ということが見いだされた．とくに，尺度の使用比率からすると，全体の半数以上の尺度が，測定概念や理論的枠組にかかわらず，

Table 3　下位カテゴリーでみた使用比率（上位10位まで）

		アイテム全体に占める比率				尺度全体に占める比率	
順位	下位カテゴリー	宗教用語	比率(%)	順位	下位カテゴリー	宗教用語	比率(%)
1位	A- 1	God,gods	21.21	1位	A- 1	God,gods	83.9
2位	B- 1	believe(religious belief)	11.37	2位	B- 1	believe(religious belief)	70.5
3位	H- 2	Church	9.34	3位	G- 2	pray,meditation	55.4
4位	D- 1	the Bible,scriptures,etc.	5.90	4位	D- 1	the Bible,scriptures,etc.	54.5
5位	H- 5	religion	5.29	5位	H- 5	religion	52.7
6位	G- 2	pray,meditation	4.54	6位	J- 3	religious	45.5
7位	E- 1	Jesus(Christ)	4.41	7位	H- 2	Church	44.6
8位	B- 2	(religious)faith	3.48	8位	B- 2	(religious)faith	42.0
9位	J- 3	religious	2.89	9位	E- 1	Jesus(Christ)	41.1
10位	C- 1	sin,grace	2.38	10位	F- 4	Churchgoing,attend worship,etc	34.8

“神, 信じる(信仰), 祈る(祈り), 宗教” の語に関連した質問内容であることが見いだされた.

また, “教会, イエス(・キリスト), 聖書” といったキリスト教用語に関連した質問内容が問われることが多い, ということも見いだされた. 今回の分析では, キリスト教文化圏に固有と考えられる宗教用語の数は単語レベルで35個(以上)あったが, これらの用語の使用比率は全4,540アイテム中25.0%を占めていた. 全112尺度中では84.8%の使用比率であった. すなわち, 細かな質問項目単位でみると全体の1/4においてキリスト教文化圏に固有と思われる用語が使用されており, また, キリスト教用語がまったく使用されていない尺度の数は全体の2割に満たない, ということが見いだされた.

宗教用語の使用例　今回の分析では, 宗教用語を単語レベルで調べているため, じっさいにどのような文脈で使用されているのかが分かりにくい. そこで次に, 使用率の高い宗教用語について, その具体的事例をTable 4 に示した.

これをみると, 単語レベルではとくにキリスト教文化圏を想定しなくともよい用語であっても, 実際にはキリスト教文化圏の文脈に埋め込まれている用語のあることが分かる. 例えば God (A-1) についてみると, “私は神の存在を信じている” (I believe there is God) という項目がみられる一方で, “私は, 全能の父であり, 天地の創造主である神を信じている” (I believe in God the Father Almighty, maker of heaven and earth) という項目がみられる. 前者の文章では, 神の存在のみが扱われているので, とくにキリスト教文化を想定しなくてもよい. しかし後者の文章では, “全能の父” および “天地の創造主” としての神が前提とされており, 神概念がキリスト教文化に埋め込まれている.

或いはまた, sin や grace(C-1) という語はそれぞれ “罪”, “恩恵” と翻訳さ

Table 4　主な宗教用語の使用事例

下位カテゴリー	用語	質問項目の事例
A-1	God	I believe there is a God.
		I believe in God the Father Almighty, maker of heaven and earth.
	gods	There are many gods and spirits of which some are good and some are evil.
B-1	believe(religious belief)	
		I believe in the basic teachings of my church and attend regularly.
		How much influence do your religious beliefs have on the important decisions of your life?
B-2	(religious)faith	
		I have found it essential to have faith.
		My religious faith is only of minor importance for my life, compared to certain other aspects of my life.
C-1	sin	Man is born in sin.
		I feel forgiven by God when I sin.
		Do you believe that Jesus was God's only son sent into the world by God to save sinful men, or do you believe that he was simply a very good man and teacher, or do you have some other belief?
	grace	Man is saved by the free gift of God's grace.
		The bible is the word of God given to guide man to grace and salvation.
D-1	the Bible	Moses was the author of the first five books of the Bible.
	scriptures	How often do you read holy scriptures?
	the Gospels	All the miraculous deeds of Jesus recorded in the Gospels are reliable history.
	the Old (New) Testament	
		The existence of God is proven because He revealed Himself directly to the prophets described in the Old Testament.
	the Word	In church I expect to be taught the Word of God.
E-1	Jesus (Christ)	I think Jesus was only a man.
		Since Christ brought the dead to life, He gave eternal life to all who have faith.
		The only home for Heaven is through personal faith in Jesus Christ.
F-4	Church going (attendance)	
		I am neither for nor against the church, but I do not believe that churchgoing will do anyone any harm.
		I go to church because it helps me to make friends.
		Church attendance helps me to rid myself of any guilt feelings for not living up to the proposed ideals of the church.
	attend worship (services)	
		Do you regularly attend a worship service?
G-2	pray	How often do you pray?
		Saying my prayers helps me a lot.
G-2	meditation	It is important to me to spend periods of time in private thought and meditation.
		(How often do you...) pray and meditate privately in places other than church?
H-2	Church	Disobendience to Church authority leads to chaos and anarchy.
		I feel that the Church has a very poor program for satisfying the needs of its members.
H-5	religion	Religion is a search for understanding, truth, love, and beauty in human life.
		One day science will supersede religion.
J-3	religious	How often do you have family religious discussions?
		How often do you tune in to religious programs on radio or television?

(使用頻度の高い用語について事例を示した. Hill & Hood (1999) をもとに作成.)

れうるが, その使用文脈は日本における意味合いとは異なる. 例えば“人は罪の状態で生まれてくる”(Man is born in sin) は, キリスト教の原罪の教義を前提とした文章である. また, “人は神の自由意志の賜物である恩恵によって救われる”(Man is saved by the free gift of God's grace) も, 神の自由意志と恩恵の教義 (神は自由意志をもち, 人類の救済のために超自然的恩恵を無償で人間に与える, とする教義) が前提とされている. なお, sin は, 全アイテムに対する比率でみても, 使用される尺度の比率でもみても, grace よりも使用比率が高い. 恩恵よりも罪を強調するキリスト教的宗教文化が反映されたものと考えられよう. キリスト教において神の使者とされるangelよりも, devil, satan (A-5) の使用比率が高いことも, このことと関連していると考えられる.

さらに, D-1の聖書 (the Bible) などは, 要するに宗教教典のことであるから, 例えば仏教の“経典”と翻訳すればよいかといえば, 必ずしもそうではない. 宗教教典の各文化圏における浸透度(教典内容が一般の人々に理解され, 知識として保有されている度合い)が異なるからである.

このように, 単語レベルでは特にキリスト教文化に固有であるとは思われない用語であっても, 項目文章をみるとやはりキリスト教文化圏に即した用いられ方がなされていることもあり, 単語レベルでの分析結果には注意が必要である.

用語表現の工夫　しかし他方, キリスト教文化圏という点を想定しなくともよいように, 宗教用語の表現が工夫されている項目もある.

とくにその工夫の跡をうかがい知ることのできるのは, 宗教的存在概念 (A) である. このカテゴリーでは, 圧倒的に単数形の God (A-1) の使用率が高く, キリスト教文化圏に固有である Son, Holy Spirit, Father (A-6) なども比較的高い. しかし一方で, being (s), the Divine (A-2) や, force, power, reality (A-3) の語を採用する尺度も, 全体の約2割みられる.前者 (A-2) では, 宗教的

存在概念の“存在性”といったものが意識されるであろうが，後者(A-3)では，“存在”というよりはむしろ，対象が明確でない，漠然とした“諸力・領域”といったものが意識されるであろう．つまり，キリスト教文化圏であっても，宗教的存在概念について必ずしも単数形の God のみが採用されているというわけではなく，宗教的存在概念を指し示すための一定の努力がなされている，と考えられるのである．

同様に，聖典カテゴリーにおける religious literature(D-2)，儀礼カテゴリーにおけるworship, religious service, ritual(F-3)，組織的宗教における religious group, religious community, religious organization(H-6) なども，特定の宗教を前提としない，抽象度の高い用語である．このような用語例はすでに日本でも，“宗教的書物，宗教団体”などとして定着している．

この，宗教用語のバリエーションは，日本における宗教性測定尺度の考案に際しても，一定の示唆を与えるものである．例えば，宗教的存在概念に関する質問項目を考案する場合，使用単語例として，“神，仏，霊魂”といった単語のみに絞るのではく，A-2 を参考として，“何らかの存在，何か神的なもの，何か神聖なもの”といった表現を用いたり，A-3 を参考として，“力，勢い，何らかの究極的な真実”といった表現を工夫する余地があろう．

1．4．自然に関連した質問項目の分析

自然および関連語の特徴 今回の分析では，新たな宗教性指標としての宗教的自然観への注目という観点から，自然に関連した語がどの程度含まれているかについても調べた．ここでは具体的な自然物や自然現象との関わりが問題になっているので，nature の語だけでなく，animal, sky, sun など具体的名称も含めて数え，全体を 4 つの下位分類に分けた (Table 2)．

まず単語レベルでみると，全アイテムに占める比率では supernatural が最も高く，次にnature, universe, などが高かった．このうち nature の比率の

順位は全82位中27位であり,この語が他の宗教用語と比較しても,やや多く使用される語であった.また,全尺度に占める比率では nature と creation が最も高く,次に supernatural, universe, などが高かった.このうち nature の比率の順位は全81位中24位であり,尺度に使用される率でもみてもこの語は,他の宗教用語と比較して,やや多く使用される語であった.

次に,下位カテゴリーごとにみると,全アイテムに占める比率では,"nature etc." (K-1) が最も高く,次に supernatural (K-4) ; universe, space (K-2) ; creation, creature (K-3), の順であった (下位カテゴリー"nature etc." (K-1) には, nature の語のほか, animal, sky, sun, star などが含まれている).このうち"nature etc." (K-1) の比率の順位は下位分類全44位中24位であり,これらの語が下位分類全体の中でみても,中程度の使用比率であった.全尺度に占める比率では"nature, etc." (K-1) が最も高く,次に creation, creature (K-3), 次いで supernaturral (K-4) とuniverse, space (K-2), の順であった.このうち "nature, etc." (K-1) の比率の順位は下位分類全44位中22位であり,尺度の採用率でもみてもこれらの語が測定尺度で,中程度に採用されていた.

これらのことから, nature の語は,関連語も含めて,宗教性測定尺度全体の中でも中程度に使用される語であることが見いだされた.

自然および関連語の意味的分類 次に, nature などの語が,どのような文脈で使用されているのかを,下位分類ごとに検討する. Table 5 は,"nature etc." (K-1) について,各語の使用文脈を考慮して意味的な分類を行った結果である.

これをみると, nature および関連語が用いられる際,最も多い(全体の約半数)のは"自然法則"という意味での使用である,ということが分かる.事例に示されているように,"私たちの生活は'自然法則'によって完全に支配制御されている,と感じることが多い","私は奇跡を信じるが,それらは

Table 5 "nature etc."(K-1)の意味的分類，および語の使用例

意味的分類	アイテム数 a)	質問項目の事例
自然法則	15	I am inclined to feel that our lives are completely controlled by "natural law." I believe the miracles happened, but can be explained by natural causes. There is a natural order to everything and all phenomena can be explained naturally. Man is not a special creature made in the image of God; he is simply a recent development in the process of animal evolution.
神との類似性	4	"God" and "Nature" are in some ways the same thing.
神による創造	4	God created man separate and distinct from animals.
自然現象	4	Just as in the past when primitive people thought that storms, volcanoes, and other natural events were due to divine action, many people nowadays consider God or the devil responsible for things that really have completely physical causes. I believe any unusual powers exhibited by people can be explained sientifically as resulting from an external energy force, such as the sun. In such cases, people are merely acting as channels or conductors.
自然災害	2	What about natural disasters, like earthquakes, floods?
自然との一体感	2	No matter what, all of us are part of nature. A feeling of unity with the earth and all living beings.
自然の永続性	2	Only nature is forever. I may die, but the streams and mountains remain.
自然美	1	When I experience the vastness and beauty of nature, my heart and mind humbly bow down before the God who created it.
民俗信仰	1	There is probably some relationship between the course of a person's life and the combination of stars and planets at the time of his birth.

a) 同一アイテムに複数の使用法がある場合は別個に数えた.
(Hill & Hood (eds., 1999) をもとに作成.)

自然的要因によって説明されうると考える", 或いは,"人間は神の像として造られた特別な被造物ではない. 人間は,動物進化のプロセスにおいてごく近年に進展してきたにすぎない", といった文脈での使用である. このような使用例は, 自然界の諸現象は自然法則から説明しうる, という意味合いでの使用であり, 宗教性測定における, いわゆる"科学と宗教との対立"の構図が反映されている, とみることができる.

この他注目すべき点として, "'神'と'自然'とは, 或る意味では同じものだ"という意味での使用例 (神との類似性), 或いはユダヤ・キリスト教文化圏に特徴的である"神は人間を, 動物とは分離区別して創造した"という意

味での使用例(神による創造),などが挙げられる.

一方,使用頻度は少ないが,“自然との一体感”,“自然の永続性”,“自然美”といった意味での使用例もみられた.これらは神秘主義研究において採用される項目である.また,全4,540アイテム中に唯一見いだされた“自然美”の項目は,“自然の広大さや美しさを経験するとき,それを創造した神の前で,私の心と精神は謙虚にひれ伏す”となっており,ここでも“神による自然界の創造”という文脈に埋め込まれていることが分かる.

次にTable 6をみると,nature以外の語として,animal, living beings, sun, stars, planetなど使用がみられるが,それらの意味的使用をみると,“神による創造”が最も多く4例である.一方,“自然との一体感”の意味での使用例が2例,“自然の永続性”の意味での使用例が1例,などとなっている.これら意味的分類の数を合わせると,全36アイテム中,“自然法則”の意味での使用例が15アイテム;“神による創造”,“神との類似性”,“自然現象”が各4アイテム;“自然との一体感”が3アイテム;“自然の永続性”,“自然災害”が各2アイテム,などとなった.これらのことから,米国の宗教性測定尺度でnatureという語(或いはそれに関連した語)が使用される場合に

Table 6 ”nature”以外の自然関連語(K-1)の意味的分類,および具体例

意味的分類	アイテム数 a)	質問項目の事例
神による創造	4	God created man separate and distinct from animals.
自然との一体感	2	A feeling of unity with the earth and all living beings.
自然現象	2	I believe any unusual powers exhibited by people can be explained sientifically as resulting from an external energy force, such as the sun. In such cases, people are merely acting as channels or conductors.
自然法則	2	Man is not a special creature made in the image of God; he is simply a recent development in the process of animal evolution.
自然の永続性	1	I may die, but the streams and mountains remain.
民俗信仰	1	There is probably some relationship between the course of a person's life and the combination of stars and planets at the time of his birth.

a) 同一アイテムに複数の使用法がある場合は別個に数えた.
(Hill & Hood (eds., 1999) をもとに作成.)

Table 7 "universe, space"(K-2)の意味的分類，および具体例

意味的分類	アイテム数 a)	質問項目の事例
神による創造	5	I believe God created the universe.
自然法則	4	We are parts of a mechanistic universe which controls every action of man.
宇宙との一体感	4	My "spirit" will have some continuation in the universe.
神による計画	3	I believe God has a plan for the universe.
自己存在の縮小	1	When compared with the vastness of space and the power of the action, man fades into insignificance.
(その他)	7	We live in a universe which, in so far as we have any reliable evidence, is indifferent to human values.

a) 同一アイテムに複数の使用法がある場合は別個に数えた.
(Hill & Hood (eds., 1999) をもとに作成.)

は，“自然法則”など，自然科学と宗教とを対比させる使用例，および，“神による創造”など，キリスト教教義を前提とした使用例が多い，ということが見いだされた.

次に，“universe, space”(K-2) について,同様の意味的分類を行った (Table 7).

ここでも“nature etc.”(K-1) と同じ傾向がみられ，“自然法則” の意味で (“我々人間も，1つの機械的宇宙の一部であり，行為の一つひとつがこれによって支配制御を受けている”など)，或いは“神による創造”(“私は神が宇宙を創造したことを信じる”など) の意味で使用されることが多いことが見いだされた.

一方，下位分類 K-1 における“自然との一体感”にほぼ相当する“宇宙との一体感”が4アイテム，同じく下位分類 K-1 における“自然美”にほぼ相当する“自己存在の縮小”が1アイテム見いだされた.“自己存在の縮小”では，“宇宙の広大さ，その営みの力強さに比べれば，人間は殆ど無意味に近くなる”という項目における意味使用であり，宇宙における人間の位置の相対化という点では，“自然美”の項目とほぼ同一である.

creation, creature (K-3) については，その殆どは，“神による創造”(K-1, K-

2) と重複しているので, 事例の提示は省略する. (ユダヤ・) キリスト教文化圏では, 自然と人間の関係は神による創造のもとで捉えられる. 自然も人間も神の“創造”(creation) によるものであり, 従って同じ“被造物”(creature) であるが, 人間は自然の管理を任されている存在であり,自然よりも上位に置かれている, とされる (この意味で, “creation, creature” の語は, 自然に関連した語である).

次に, supernatural (K-4) について, 同様の意味的分類を行った (Table 8). supernatural は “超自然 (的)” と翻訳されるが, その使用文脈は異なっていると考えられたので, 分類を行った.

これをみると, “超自然的存在, 勢力, 力” の意味での使用例がもっとも多かった. God の語を使用せずに宗教的存在概念を表現しようとする例もあるが, 事例に挙げられたように, God の属性として使用されている場合もある (“私は宇宙における唯一の超自然的力, すなわち愛である神の力, を信じる” など). この場合, supernatural は God の意味とほぼ同義に使用されていることになる. 次に多いのは, “超自然的助力 (介入)” の意味での使用である. “私は, 人間が共に働き共に考えていけば, 超自然的な助力なしでも

Table 8 "supernatural"(K-4)の意味的分類, および語の使用例

意味的分類	アイテム数 a)	質問項目の事例
超自然的存在,勢力,力	14	I believe there is a supernatural being, the devil, who continually tries to lead men into sin. I believe the only supernatural force in the universe is that of a loving God. Every person should heve complete faith in a supernatural power whose decisions are obeyed without question.
超自然的助力(介入)	6	I believe that men working and thinking together can build a just society without supernatural help. There are many events which cannot be explained except on the basis of divine or supernatural intervention.
超自然的現象	5	Discussing spiritual occurrences and supernatural phenomena is foolish and absurd. I enjoy tales of the supernatural, horror and the macabre.
超自然的説明	3	One problem with many Christians is that they try to give supernatural explanations for events that probably were caused by natural phenomena.

a) 同一アイテムに複数の使用法がある場合は別個に数えた.
(Hill & Hood (eds., 1999) をもとに作成.)

正しい社会を築いていくことができる，と信じている”の事例のように，supernatural の実在性よりは作用的側面を意味している．そのほか，“超自然的現象”（いわゆる超常現象）での意味使用が５アイテム，“超自然的説明”の意味での使用が３アイテムみられた．いずれにせよ，supernatural（K-4）は，純粋に“自然界を超えた”という意味で使用されているわけではなく，God の属性として，或いは，科学では説明ができないと信じられている或る勢力や作用，という意味で使用されている，と考えられた．

１．５．まとめ

以上，英語圏で考案された宗教性測定尺度の質問項目について，主として項目文章内で使用されている宗教用語の使用比率を手がかりとした分析を行ってきた．また，とくに自然に関連した用語についても，同様の分析を試みた．その結果，以下のような特徴がみられることが見いだされた：

（１）質問項目（全4,540アイテム）中，最も多く使用されている宗教用語は God（21.2％）であり，続いて順に，believe（religious belief）（11.4％），Church（9.3％），religion（5.3％），Jesus（Christ）（4.4％），などが多く使用されていた．分析対象となった全112尺度における宗教用語の使用率でみても，God（83.9％）が最も高く，続いて順に，believe（religious belief）（70.5％），pray（54.5％），religion（52.7％），the Bible（47.3％）などが多く使用されていた．

（２）sin は grace よりも，devil, satanは angelよりも，単語の使用率および尺度への採用率ともにそれぞれ高かった．この点については，恩恵よりも罪を強調する宗教文化がその背景として考えられた．

（３）キリスト教に固有であると考えられる宗教用語群（Church, Jesus（Christ），the Bible など）については，全アイテム数の１／４において使

用されており，また，これらの用語がまったく使用されていない尺度の数は全体の２割に満たなかった．とくに，the Bibleの語については尺度への採用率がキリスト教用語群の中で最も高く（47.3%），キリスト教文化圏における宗教聖典の重視が確認された．

（４）一方，とくに宗教的存在概念を表現する用語の中には，単数形の God やキリスト教用語である Son, Holy Spirit（Ghost），Father などのほかに，being（s），the Divine, force, power, reality などの表現も使用されていた．この点については，宗教的存在概念の表現を工夫した結果とも解釈でき，日本における用語設定の面からも，重要な示唆を与えるものと考えられた．

（５）自然に関連した用語についてみると，単語使用率では supernatural が最も高く（0.6%），次いで順に，nature（0.5%），universe（0.5%）などが高かった．尺度への採用率では nature（12.5%）および creation（12.5%）が最も高く，次いで順に，supernatural（11.6%），universe（10.7%）などが高かった．これらの用語が使用される文脈を質的に検討した結果，“神による創造”という文脈で使用される事例が最も多く，次に，“自然法則”という文脈で使用される事例，“超自然的存在，勢力，力”という文脈で使用される事例が多かった．また，“自然（宇宙）との一体感”という文脈での使用例も８アイテムみられた．一方，“自然美”という文脈での使用例，および“自己存在の縮小”という文脈での使用例は，それぞれ１アイテムづつであった．このうち“自然美”の事例は，“自然を創造した神”という語句が付加され，キリスト教宗教文化を反映したものであった．

２．日本の宗教性測定尺度の分析

日本においては，英語圏の場合のような，“宗教性測定尺度集”なるもの

は今のところ存在しない. また, 心理学的な測定尺度としての体裁(尺度名および構成概念の明示, 尺度の信頼性および妥当性の検討など)をもつ研究も極めて少数である. このことは, 未だ実証的研究分野としての宗教心理学, ないしは宗教社会心理学が方法論的にも確立していないことを示唆しているであろう. このような事情から, 国内調査における宗教性測定尺度を検討するといっても, Hill & Hood(eds. 1999)との条件を一致させることは難しい.

そこで本項では, 文献を収集できた調査研究のうち, (1)比較的よく知られている社会調査; (2)宗教社会学および社会心理学分野における調査研究, という基準を設け, これに該当するような尺度, および質問項目群を検討対象とした.

2.1. 目的と方法

目的

(1) 質問項目全体, および尺度全体に対する, 宗教用語の使用比率を調べ, 全体的な特徴を明らかにする.

(2) 宗教的自然観の観点から, 自然に関連した用語の使用比率を調べ, その用語が用いられる具体的な質問項目についての質的検討を行う.

方法　42の調査主体(個人, 研究グループ, 調査機関, 新聞社など)による71の尺度(および質問項目群)を検討対象とした. 尺度数(質問項目群の数)については, 調査主体が同一であっても, 別個の調査を実施していたり, 項目の文章表現に変更が加えられているものを個別に数えた. 検討対象に含まれた調査研究は, 以下の通りであった(発表・刊行年順): 高木きよ子(1952); 家塚高志(1956); 牛島義友(編著, 1961); 安藤延男(1962, 1963, 1965); 溝口靖夫・雀部猛利・難波紋吉(1962, 1963); 葛谷隆正(1966, 1967, 1968, 1969); 山崎昭見(1966); 日本連合教育会(編, 1966); 柴田道

賢（1967, 1968）；今井孝太郎（研究代表, 1973）；増谷文雄（編, 1975）；中村陽三（1975, 1976, 1977）；岩水竜峰（1977, 1978）；真野一隆（1977）；林知己夫（1981）；林信男・川崎正明（1981, 1985）；NHK放送世論調査所（1984）；NHK放送文化研究所（2000）；石黒鈞二（1985）；こども調査研究所（1987）；高木秀明・吉田冨二雄・森美奈子（1987）；石黒鈞二・酒井亮爾・山田ゆかり（1988）；北川直利（1988）；田島忠篤（1992）；統計数理研究所国民性調査委員会（編, 1992）；会沢勲（1993）；杉山幸子（1993）；深谷和子・石川洋子・山根はるみ（1994）；日本世論調査会（1995）；黒田輝彦・井上佳朗・片平眞理（1995）；橋本良明・福田充・辻大介・石井健一・見城武秀・森康俊・水野博介（1995）；中村雅彦（1995）；深谷昌志・木下勉・吉川杉生・大野道夫・尾澤弘恒（1997）；金児暁嗣（1997）；西沢悟（1997, 1998）；岩井阿礼（1998）；統計数理研究所国民性国際調査委員会（編, 1998）；小川美香（1999）；総務庁青少年対策本部（1999）；山縣喜代（1999）；井上順孝（研究代表, 2000a, 2000b）；西脇良（2002）. 新聞社による世論調査としては, 読売新聞社（1952, 1965, 1969, 1989, 1994, 1995）；朝日新聞社（1981, 1995）；毎日新聞社（1985, 1991）を検討対象とした.

各調査における各質問項目を1アイテムと数えた. ただし, 単に教示文としての機能をもったアイテム (e.g. “次にあげる項目のうち, あなたがいる, あると思うものに○をつけて下さい” など) は除いた. 質問項目に続く選択肢についても, それぞれ1アイテムと数えた. ただし, 質問文に対する賛否の程度や頻度を訊ねる項目（量的な選択肢）；DK/NA項目（“分からない, 答えない”）；選択肢が家族構成員のみである項目 (e.g. “祖父, 祖母, 父,母, etc. ”) は, 数えなかった. こうして, 全71の尺度（および質問項目群）から2,516アイテムを分析対象として確定した.

宗教用語の選定にあたっては, 英語圏における宗教性測定尺度との比較を念頭に置き, Table 2 に示された分類に基づいた. また, 新たな分類の追加

が必要な場合は,適宜追加した.

2.2.結果と考察 — 全体的特徴

宗教用語の個数および比率　分析対象となった71の尺度および質問項目群(2,516アイテム)に対する,各宗教用語の個数および比率は,Table 9に示す通りとなった.

宗教的存在概念(A)では,新たに3の下位分類を設けた.“何か—なもの”(A-7)には,“何か偉大なもの”(家塚,1956),“何か神々しいもの”(増谷編,1975),“何か目に見えない真実のもの”(金児,1997),などの表現をとるアイテムを含めた.信仰(B)では,believeに相当する語として“信じる,信心する”(B-1)を,faithに相当する語として“信仰,信心”(B-2)を,それぞれ想定して数えた.この他,“宗教心,宗教的な気持ち”(B-3)などの表現もみられたので,新たに下位カテゴリーを設けた.教義(C)では,“輪廻転生,生まれ変わり”(C-5)の用語を,新たに下位カテゴリーとして数えた.宗教的人物(E)では,E-3(英語圏尺度ではBuddha)が日本では宗教的存在概念として用いられていることを考慮し,ここには含めなかった.さらに,一般的表現としての“教祖,宗教的先覚者”(E-4)などの用語がみられたので,新たに下位カテゴリーとして数えた.組織的宗教(H)では,新たに宗教活動(H-7)を設けた.また宗教(H-5)については,熟語の形態をとらず単独で用いられる場合のみを数えた.宗教成員(I)では,I-4(英語圏尺度ではreligious preference)に相当する明確な用語がみられなかったので,ここでは数えなかった.ただ意味的には,いわゆる“宗教の有無”を問う質問項目がこれに該当し,具体的にはキリスト教(H-1)や“仏教,神道”(H-3)に属しているか否かを問うアイテムがみられた.

アイテム全体を通覧すると,いわゆる民俗的な信仰や宗教行動に関わる用語が多くみられた.これらの中には,“お守り,お札,おみくじ,易,手相,厄”

Table 9　国内の宗教性測定尺度にみられる宗教用語の使用比率

(1/3)

上位カテゴリー	下位カテゴリー a)	宗教用語	全アイテム (n=2,516)に占める比率(%)	全尺度 (n=71)に占める比率(%)	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全ｱｲﾃﾑに対する比率	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全尺度に対する比率
A　宗教的存在概念						
	A- 1	神(様)	6.28	38.0		
		神(様)や仏(様),神仏,神(仏陀)	6.00	47.9		
		仏(様),お釈迦様,仏陀,如来	1.27	18.3		
		氏神	0.44	9.9		
		神々	0.16	2.8	13.75	49.3
	A- 2	存在	0.95	7.0	—	—
	A- 3	力	0.56	11.3	—	—
		現実(reality)			—	—
	A- 4	(ーの)霊	1.79	29.6		
		魂	0.68	21.1		
		霊魂	0.72	19.7	3.18	50.7
	A- 5	悪魔	0.12	4.2		
		天使	0.04	1.4	0.12	4.2
	A- 6	神の独り子	0.08	1.4		
		聖霊				
		父(おとうさま)	0.08	2.8	0.16	2.8
	A- 7	何かーなもの	1.83	33.8	—	—
	A- 8	運命	0.32	9.9	—	—
	A- 9	先祖(供養,ーの墓,ーの霊),祖先(崇拝,ーの霊)	1.51	33.8	—	—
B　信仰	B- 1	信じる,信心する	5.60	66.2	—	—
	B- 2	信仰,(宗教的)信仰,信心	6.84	46.5	—	—
	B- 3	宗教心,宗教的な気持ち,宗教的な心,宗教的覚醒	0.79	14.1	—	—
C　教義	C- 1	罪,罪深い,罪悪,罪業,罪人	0.52	11.3		
		恩恵,恵み	0.12	4.2	0.60	12.7
	C- 2	十戒			—	—
	C- 3	救い,救う,救済	1.67	29.6	—	—
	C- 4	天国,極楽,極楽浄土	0.91	26.8		
		地獄	0.72	22.5	1.11	29.6
	C- 5	輪廻転生,生まれ変わり	0.36	12.7	—	—
D　聖典	D- 1	聖書	0.83	18.3		
		経典 c)	0.36	9.9	0.91	21.1
	D- 2	宗教関係の本,宗教的書物,宗教書,宗教に関する読書,etc.	1.03	23.9	—	—
E　宗教的人物						
	E- 1	(イエス･)キリスト	0.24	7.0	—	—
	E- 2	(聖書登場人物,預言者,etc)			—	—
	E- 3	(A-1参照)			—	—
	E- 4	教祖,宗教的先覚者,偉大な宗教的人間	0.20	5.6	—	—
F　儀礼	F- 1	ミサ	0.04	1.4	—	—
	F- 2	クリスマス	0.20	7.0		
		イースター	0.04	1.4	0.24	8.5
	F- 3	礼拝,法事,法要,宗教(的)行事,宗教儀式,宗教的な集会,信者の集まり,参禅会	1.99	35.2	—	—

上位カテゴリー	下位カテゴリー a)	宗教用語	全アイテム(n=2,516)に占める比率(%)	全尺度(n=71)に占める比率(%)	下位カテゴリー集計 b) 全アイテムに対する比率	下位カテゴリー集計 b) 全尺度に対する比率
	F- 4	教会(一の行事,礼拝)に行く(参加する,出席する)	0.36	9.9		
		(F-3に)行く,参加する,出席する	0.44	11.3		
		参拝,お宮参り,お参り,参詣 d)	1.59	26.8	2.23	38.0
G 宗教的経験						
	G- 1	宗教的経験,宗教経験			—	—
	G- 2	祈り(祈る)	1.91	31.0		
		瞑想,黙想,精神統一,お勤め,勤行,修行,修業,修養,宗教的な行	1.31	29.6	3.06	36.6
H 組織的宗教						
	H- 1	キリスト教	1.63	26.8	—	—
	H- 2	教会,キリスト教会(F-4を除く)	1.43	29.6	—	—
	H- 3	ユダヤ教	0.08	1.4		
		イスラム教	0.08	2.8		
		ヒンズー教	0.00	0.0		
		仏教	0.99	22.5		
		神道	0.79	16.9	1.87	9.9
	H- 4	寺,寺院	4.05	35.2		
		神社	2.54	35.2		
		神社仏閣,社寺	0.24	7.0	5.45	56.3
	H- 5	宗教(A-7,B-2,D-2,E-4,F-3,J-3,H-6,H-7を除く)	12.64	73.2	—	—
	H- 6	宗教団体,宗教組織	1.03	16.9		
		新宗教,新興宗教,新新宗教,最近の新しい宗教	0.60	9.9	1.63	22.5
	H- 7	宗教活動	0.40	4.2	—	—
I 宗教成員						
	I- 1	信者,門信徒,信徒,組み手(I-2を除く)	1.79	15.5		
		無宗教	0.20	1.4	1.99	16.9
	I- 2	キリスト教信者	0.20	1.4	—	—
		非キリスト教徒			—	—
	I- 3	指導者	0.08	1.4		
		宗教家	0.40	11.3		
		お坊さん,住職,僧侶,坊守さん	1.47	8.5		
		牧師	0.12	4.2		
		神父	0.04	1.4		
		聖職者	0.00	0.0		
		修道女,シスター	0.00	0.0		
		神主	0.04	1.4	1.95	19.7
	I- 4	(H-1,H-3参照)			—	—
J その他						
	J- 1	(キリスト教の精神)	0.04	1.4	—	—
	J- 2	日曜学校,教会学校	0.36	8.5		
		宗教教育	0.04	1.4	0.40	9.9
	J- 3	宗教的(A-7,B-2,B-3,D-2,E-4,F-3,G-2を除く)	0.76	16.9	—	—
	J- 4	科学(者,的,では,etc.)	2.23	40.8	—	—
	J- 5	(生命の)神秘性,(他はA-7参照)	0.04	1.4	—	—
	J- 6	奇跡	0.20	5.6	—	—

(3/3)

上位カテゴリー	下位カテゴリー a)	宗教用語	全アイテム (n=2,516)に占める比率(%)	全尺度 (n=71)に占める比率(%)	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全ｱｲﾃﾑに対する比率	下位ｶﾃｺﾞﾘｰ集計 b) 全尺度に対する比率
K 自然関連語						
	K- 1	自然	1.55	28.2		
		(”自然”以外の自然観連語)	1.79	29.6	2.78	39.4
	K- 2	宇宙	0.48	15.5	—	—
	K- 3	創造(者),造る,つくる	0.20	5.6		
		被造物			0.20	5.6
	K- 4	超自然的な,自然を超えた	0.16	5.6	—	—
L 民俗的信仰・宗教行動						
		(星,ﾀﾛｯﾄ,動物,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ,etc.)占い,占い師	1.99	36.6		
		お守り	1.11	32.4		
		お札,おふだ	0.99	26.8		
		おみくじ	0.87	26.8		
		UFO,空飛ぶ円盤,宇宙人	0.87	16.9		
		超能力,超自然的能力,超常現象	0.83	19.7		
		易	0.60	15.5		
		縁起(ーがいい,物)	0.44	15.5		
		手相	0.36	12.7		
		血液型性格判断,血液型と性格	0.28	9.9		
		迷信	0.24	8.5		
		厄年,厄除け	0.16	5.6	6.76	54.9

a) 斜体英数字は，英語圏における分類にはなく，新たに追加された分類を表す.
b) 同じアイテム中に2個以上の単語/語句がみられる場合は,それらをまとめて1個と数えた.
c) ”お経をあげる”を除く
d) ”神棚/仏壇へのお参り”を除く

といった比較的古いものから,“星占い,コンピューター占い,UFO,宇宙人,超能力”といった比較的新しいものまで様々な用語が含まれている.これらの用語を含むアイテムは日本の調査に特徴的であるため,あらたに民族的信仰・宗教行動(L)の分類を設け,比較的多く用いられる語のみをそこに含めた.この他にも,例えば“雪男,ネッシー,カッパ,妖怪,人のたたり,タイムマシン,鬼,日の吉凶,鬼門,恵方”などといった用語がみられたが,比較的少数であったため,ここでは数えなかった.

なお,英語圏の尺度に対応するカテゴリーのうち,現実(A-3),聖霊(A-6),十戒(C-2),聖書中の登場人物(E-2),宗教的経験(G-1),ヒンズー教(H-3),非キリスト教徒(未信者)(I-2),“聖職者,修道女,シスター”(I-3),被造物(K-3)については,今回収集した国内調査には使用されていなかった.

宗教的存在概念の表現　分析結果のうち,宗教的存在概念(A)の分類に

おける特徴が，もっとも注目される点であった．まず第1に，下位カテゴリーA-1において，“神や仏”のように，神と仏を結合させた表現が，全アイテムに対する使用比率では，単独の“神”とほぼ同率，また全尺度に対する使用比率ではやや多くみられた．一方，単独で“仏，お釈迦様，etc.”が用いられることは，アイテムでみても尺度でみても少なかった．このことは，国内調査が，回答者を取り巻く神仏習合としての宗教文化に配慮していることの現れ，と考えられた．“氏神”や“神々”といった表現がみられるのも，この点に関連していると考えられる．

第2に，A-4においては，“魂”や“霊魂”という語よりも“霊”の語の方が，単語数でも採用尺度数でも多いことが見いだされた．その場合，単独で“霊”の語が使用されるよりは，“先祖の霊，自然の霊，草木の霊，動物の霊，守護霊，背後霊”など，個別具体的な表現を伴う複合語が多かった．

第3に，A-7にみられるように，“神，仏，霊魂”などの伝統的概念以外の表現が，かなり用いられていることも見いだされた．先に示した事例以外にも例えば，家塚（1956）は，“何か困った事がおきた場合，何か目に見えない偉大な存在や（神様，仏様，死んだ肉親，或いは大宇宙の意志，その他何でもよい．人格的,非人格的な一切のものをさす）に救いを求めたいという気持ちがおこるか”（下線筆者）という質問項目を設定している．或いは柴田（1968）は，回答者の考える“宗教心”を7選択肢で訊ねるなかで，“神さまでも，仏さまでもよい，何かそういうものにすがっていたいような心持ち”（下線筆者）という選択肢を含めている．また北川（1988）も，“あなたは，何か非常に困った問題にぶつかった場合，神や仏（あるいは，それに近いもの）に祈りますか”（下線筆者）という項目を設定している．これらの事例にみられるように，日本人一般に神観念に関わる宗教意識を訊ねる場合，“何か－なもの”という定型的な表現が使用されることが多い．この，“何か－なもの”という表現は,回答者の宗教意識が伝統的かつ固定的な神仏霊魂観

念に適合しない場合を想定しての工夫,と考えられる.

これら宗教的存在概念を採用する尺度の比率を,下位分類ごとに示した(Fig. 1).

“霊, 魂, 霊魂”(A-4)と“神, 神仏, 仏, 氏神”(A-1)とはほぼ同率で最もよく採用されており, 次に“先祖, 祖先”(A-9)と“何か—なもの”(A-7)とが同率で続く, という結果になっている. これらはあくまでも, 神仏霊魂観念に関する宗教意識を訊ねる際の質問者側の傾向を示しているのだが, この傾向が妥当する宗教文化そのものの反映, とも考えることができよう. すなわち, 日本人の宗教意識には, (1) 単数の“神”に向かうよりは複数神の方向へ, (2) 神と同時に諸霊・先祖も, かつ, (3) そもそも明確な概念としてあるよりは漠然と捉えられた“モノ”に対する感性, といった特徴があるために, これらに即した用語法がとられている, と考えられる.

使用比率の高い宗教用語 次に, 使用比率の高かった(上位10位まで)宗教用語を, 下位カテゴリーごとに示した(Table 10).

全アイテムに対する使用比率では, 宗教的存在概念カテゴリーであるA-1

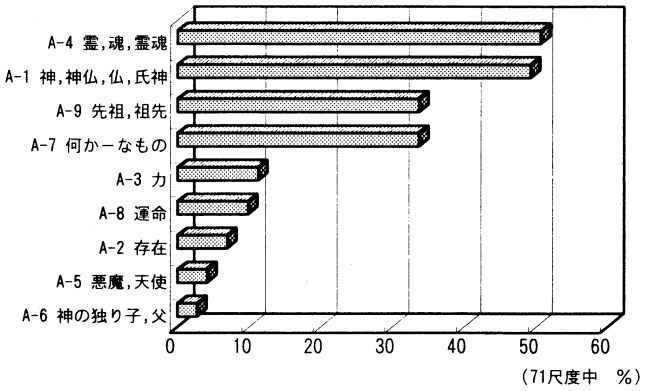

Fig. 1 宗教的存在概念(用語)の使用比率

Table 10　下位カテゴリーでみた使用比率(上位10位まで)

順位	下位カテゴリー	アイテム全体に占める比率 宗教用語	比率(%)	順位	下位カテゴリー	尺度全体に占める比率 宗教用語	比率(%)
1位	A- 1	神,仏,神仏,神々,氏神	13.8	1位	H- 5	宗教	73.2
2位	H- 5	宗教	12.6	2位	B- 1	信じる,信心する	66.2
3位	B- 2	信仰,(宗教的)信仰,信心	6.8	3位	H- 4	寺,寺院,神社,etc.	56.3
4位	L	(民俗的信仰/宗教行動)	6.8	4位	L	(民俗的信仰/宗教行動)	54.9
5位	B- 1	信じる,信心する	5.6	5位	A- 4	霊,魂,霊魂,etc.	50.7
6位	H- 4	寺,寺院,神社,etc.	5.4	6位	A- 1	神,仏,神仏,神々,氏神	49.3
7位	A- 4	霊,魂,霊魂,etc.	3.2	7位	B- 2	信仰,(宗教的)信仰,信心	46.5
8位	G- 2	祈り,願想,お勤め,etc.	3.1	8位	J- 4	科学(者,－的,－では,etc.)	40.8
9位	K- 1	自然,自然関連語	2.8	9位	K- 1	自然,自然関連語	39.4
10位	J- 4	科学(者,－的,－では,etc.)	2.2	10位	F- 4	教会に行く,参拝,お参り	38.0
10位	F- 4	教会に行く,参拝,お参り	2.2				

(神, 仏, 神仏,神々, 氏神) が最も高く, 次いで, 組織的宗教カテゴリーであるH-5 (宗教), 信仰カテゴリーであるB-2 (信仰, 宗教的信仰, 信心), 民俗的信仰/宗教行動カテゴリー, などの順位となった. また, 尺度全体に占める使用比率では, 組織的宗教カテゴリーであるH-5 (宗教) が最も高く, 次いで, 信仰カテゴリーであるB-1 (信じる, 信心する), 組織的宗教カテゴリーであるH-4 (寺, 寺院, 神社, etc.), 民俗的信仰/宗教行動カテゴリー, などの順位となった. "占い" など, 民俗的信仰に関する用語が多いことは, 日本の宗教意識調査の特徴の1つといえる. このほか, "科学 (者, －的, －では, etc.)" も上位を占めていた. このことは, 日本人の宗教意識を調査する場合に, 宗教と科学との関係に対する意識を含めて訊ねることがかなり多い, ということを示唆している.

注目されるのは, 自然関連語カテゴリーであるK-1 (自然, 自然関連語) が上位に入っている点である. "自然" という語, 或いは"山川草木, 空, 海, 森" などの自然関連語は, アイテム全体に対する使用比率で44位中9位, 尺度全体に対する使用比率でも43位中9位であった. このことは, 宗教意識および宗教行動を訊ねる場合に, "自然" に関連した質問項目を設定する割合がいかに多いか, ということを示唆していると考えられる. 分析対象となった全71の尺度 (質問項目群) のうち約4割において "自然" に関連する語

が採用されていたことは特筆に値しよう.

2.3. 自然に関連した質問項目の分析

自然および関連語の意味的分類　まず, “自然”の語, および自然関連語(K-1)について, 各語の使用文脈を考慮して意味的分類を行った(Table 11).

最も多かった使用例は, 自然霊という意味での使用であり, 次に, 自然の神秘性, 葬儀形式, 自然神という意味での使用例が多かった. 葬儀形式とは, 近年注目されている散骨による自然葬について訊ねる項目における使用である. また, 自然との一体感, および自己存在の縮小(自然に接してへりくだった気持ち, 謙虚な気持ちになる, など)という意味での使用例がそれぞれ3例みられた. 一方, 何らの自然法則に関わる文脈での使用例は全70アイテム中, 2例みられたのみであった.

次に, 宇宙(K-2), 創造(K-3), 超自然的(K-4)についても, 同様の意味的分類を行った(Table 12).

宇宙(K-2)の語の使用文脈は, かなり幅がみられ, (宇宙そのものを超えた存在者という意味での)超越者の文脈が3例, 何らかの自然法則の象徴としての使用例が2例, 宇宙との一体感という意味での使用例が2例, などとなった. 創造(K-3)ではすべて神による創造という意味での使用例であり, 超自然的(K-4)でもすべて超自然的存在を提示するための使用例であった.

2.4. まとめ

以上, 国内の宗教意識調査における質問項目について, 主として項目文章内で使用されている宗教用語の使用比率を手がかりとした分析を行ってき

Table 11 ”自然”および自然関連語(K-1)の意味的分類，および語の使用例

意味的分類	アイテム数	質問項目の事例	出典
自然霊	12	山・川・草・木などに自然の霊が宿っているように感じることがある	金児(1997)
		次にあげるものの中で,あなたが,いる,あると思うものがありますか.あればいくつでもあげて下さい(12肢MA)：木霊,山神などの自然の霊	読売新聞(1989)
自然の神秘性	11	日の出,日没,星空,野の花などの美しい自然に触れ,うたれたような感動が生じたことがある	西沢(1998)
		私は,大自然のすばらしさをみて,そこにふしぎな力がはたらいていることを感じます	中村(1977)
葬儀形式	8	散骨・自然葬について知っていますか	井上(2000a)
		人が亡くなったとき,お骨を墓地に埋葬しないで,粉にして海や山などにまく,いわゆる「散骨」が注目されています.法務省は「節度をもって行う限りは法律的に問題はない」としていますが,あなたは,亡くなった人を送る方法として,「散骨」は,あってもよいと思いますか,そうは思いませんか	読売新聞(1994)
自然神	6	神について,それは何だと思いますか.回答欄の記号に○印をつけて下さい(7肢MA)：自然そのもの	林・川崎(1985)
		狐や象などを祭ったお社をよく見かけますが,それらの動物は私達を守ってくれる神々だと思います	山縣(1999)
自然との一体感	3	大自然の中で,自分と自然とが一体になったように感じたことがあります	中村(1976)
自己存在の縮小	3	11高い山などに登った時,私は,それを征服したという気持ちよりも,大自然の偉大さに対して,へりくだった気持ちになる	安藤(1963)
終末時の現象	2	終末に起こることとして,あなたの身の回りでうわさになったことを次から選んでください(6肢)：隕石の衝突；火山の爆発；大地震；異常気象	井上(2000a)
宗教の機能	2	宗教とは,大いなる自然の力に恐怖した人間の自己防衛手段である	高木ら(1987)
自然法則	2	進化論は植物や動物にはあてはまるが,人間にはあてはまらないと思う	石黒(1985)
自然と科学	2	自然には科学以上の力がある	黒田ら(1995)
神の超越性	2	私は,神というものは,死者や動物その他自然のなかのどんなものにもおきかえられるものではなく,それらを全く超えた偉大なものであると思っています	山縣(1999)
たたり	1	人や動物をいじめると,たたりがあるようでこわいです	山縣(1999)
聖域	1	宗教によっては,山などの，一部の神聖な場所には,女性が入ってはいけないとするところがありますが,これについてあなたはどう思いますか	井上(2000a)
死後観	1	私は,死んだらみんな灰となって自然に帰るだけであり,自然の一部になるのだと思っています	山縣(1999)
神の所在	1	神さまや仏さまは,どこにいると思いますか(6肢)：空にいる；海・森・地面	日本連合教育会(1967)
神による創造	1	私は,人間や自然は神によってつくられたと思っています	山縣(1999)
おのずから	1	私は,我々を取り囲んでいる大自然はひとりでに出来上がったものだと思っています	山縣(1999)
生まれ変わり	1	私は,人間は死んでもまた異なる動物などに生まれ変わって繰り返し生きるのだと思っています	山縣(1999)
その他	10	あなたは観光地を訪れたり,山へ登ったりしたとき,そこに神社があったらお参りしますか	読売新聞(1965)
		なるべく自然を大切にした生き方を心掛けている	黒田ら(1995)

Table 12　宇宙(K-2)，創造(K-3)，超自然的(K-4)の意味的分類，および語の使用例

下位ｶﾃｺﾞﾘｰ	意味的分類	ｱｲﾃﾑ数	質問項目の事例	出典
宇宙(K-2)	超越者	3	宇宙をコントロールする大きな何かが存在する	高木ら(1987)
	自然法則	2	宇宙は永遠にわからないという考えがありますが，人間の知恵はやがてその究極を知りつくしてゆくだろうと思いますか	牛島(1961)
	宇宙との一体感	2	あなたは，次にあげるようなことを体験してみたいと思いますか．そう思うものがあればいくつでもあげて下さい(6肢MA)：自然や宇宙との一体感を感じる	読売新聞(1989)
	終末時の現象	1	「世界は滅亡する」としたら，その原因は何だと思いますか．次の中から1つだけお答えください(6肢)：すい星の衝突など宇宙規模の異常現象	日本世論調査会(1995)
	自然霊	1	この宇宙のあらゆるもの(星，人，動物，山々，森など)には何か霊的なものがやどっていると思う	西脇(2002)
	自然神	1	私は自然や宇宙のなかに，太陽や月，山や川などのいろいろな神々があると思っています	山縣(1999)
	神の所在	1	あなたは人間を超越した神が存在すると思いますか→(SQ)存在するとした人はどこに存在すると思いますか(4肢)：宇宙	日本連合教育会(1967)
創造(K-3)	神による創造	5	人間は神によってつくりたされたと思いますか	杉山(1993)
超自然的(K-4)				
	超自然的存在	4	あなたは，人間や自然を超えた何か大きなものの存在を，感じることがありますか	朝日新聞(1981)

た．また，とくに自然に関連した用語についても，同様の分析を試みた．その結果，以下のような特徴がみられることが見いだされた：

(1) 質問項目（全2,516アイテム）中，最も多く使用されている用語は“宗教”(12.6%)であり，続いて順に，“信仰，(宗教的)信仰，信心”(6.8%)，“神”(6.3%)，“神や仏，神仏，etc.”(6.0%)，“信じる，信心する”(5.6%)，などが多く使用されていた．分析対象となった全71尺度（および質問項目群）における宗教用語の使用率でみても，“宗教”(73.2%)が最も高く，続いて順に，“信じる，信心する”(66.2%)，“神や仏，神仏，etc.”(47.9%)，“信仰，(宗教的)信仰，信心”(46.5%)，などが高かった．

(2) “科学(者，－的，－では，etc.)”の語の尺度への採用率が40.8%，また，“占い，占い師”の語は36.6%であるなど，この2用語が上位を占めていた．このことは，日本人の宗教意識を調査する場合に，占いに対する意識や行動，或いは，宗教と科学との関係に対する意識を含めて訊ねる

ことがかなり多いということを示すものと考えられた.

(3)自然関連語カテゴリーであるK-1(自然, 自然関連語)が上位に入っており, 宗教意識および宗教行動を訊ねる場合に, "自然"に関連した質問項目を設定する割合がいかに多いか, ということを示唆していると考えられた.

(4)宗教的存在概念(A)の下位カテゴリーA-1において, "神"と"仏"を結合させた表現が, 多くみられた. 一方, 単独で"仏, お釈迦様, etc."が用いられることは, アイテムでみても尺度でみても少なかった. このことは, 国内調査が, 回答者を取り巻く神仏習合としての宗教文化に配慮していることの現れ, と考えられた.

(5)同じく宗教的存在概念(A)の下位カテゴリーA-4において, "魂"や"霊魂"という語よりも"霊"の語の方が, 単語数でも採用尺度数でも多いことが見いだされた. その場合, 単独で"霊"の語が使用されるよりは, "先祖の霊, 自然の霊, 草木の霊, 動物の霊, 守護霊, 背後霊"など, 個別具体的な表現を伴う複合語が多かった.

(6)同じく宗教的存在概念(A)の下位カテゴリーA-7において, "神, 仏, 霊魂"といった伝統的概念以外の表現がかなり用いられていた. 日本人一般に神観念に関わる宗教意識を訊ねる場合, "何か－なもの"という定型的な表現が使用されることが多く, 回答者の宗教意識が伝統的かつ固定的な神仏霊魂観念に適合しない場合を想定しての表現の工夫, と考えられた.

(7)上記(4)－(6)より, 単数の"神"よりは複数神(神仏)を, 神と同時に諸霊・先祖も, 明確な概念としてあるよりは漠然と捉えられた"モノ"に対する感性を, それぞれ重視する日本人の宗教意識が想定され, 質問項目における用語法はこの宗教文化に即したものである, と考えられた.

3. 比較検討

これまで, 国内外の宗教性測定尺度の特徴, とくに各尺度が設定してきた質問内容の特徴を浮き彫りにすることを目的として, 質問項目で採用された宗教用語に着目した分析を行ってきた. 本項では, これらの分析をふまえて, 国内尺度と英語圏尺度との比較検討を行うことにする.

先の分析では, 宗教用語について, 国内尺度と英語圏尺度に共通したAからKまで11の分類, および, 各分類における下位カテゴリーを設けた. そして, 単語ごと・下位カテゴリーごとにそれぞれ, (1) 全アイテム数に対する宗教用語の使用比率, (2) 全尺度数に対する宗教用語の使用比率を得た. (1) からは, 全体としてどのような宗教用語がどの程度使用されているかが分かり, (2) からは, 或る用語の使用頻度にかかわりなく, その用語を採用した尺度が全体としてどの程度みられるのか, が分かる. ここでは, (2) の観点からの比較検討を行うことにする. また, 単語レベルでの日本語と英語の対応づけが困難であることから, 下位カテゴリーとしてまとめられた用語群の比較のみを行う.

顕著な差がみられた下位分類　国内尺度および英語圏尺度それぞれの, 各下位カテゴリーにおける使用比率について二群の比率の差の検定を行ったところ, Table 13 に示す結果となった.

結果をみると, まず第1に, 宗教用語が実際にはキリスト教に固有の用語であるがゆえに, (キリスト教文化圏である) 英語圏尺度の使用比率の方が有意に高くなっているカテゴリーが多い. すなわち, A-5 (devil, satan, angel) ; A-6 (Son, Holy Spirit, Father) ; D-1 (the Bible, Scripture) ; E-1 (Jesus Christ) ; F-1 (Holy Communion, Mass) ; H-2 (Church) ; I-2 (Christian), がこれに相当する. 一方, 宗教用語が日本の宗教文化を反映したものであるがゆえに国内尺度の使用比率の方が高いと解釈できるカテゴリーとしては, A-4 (霊, 魂, 霊魂) ; H-4 (寺院, 神社), などをあげることができよう.

Table 13　宗教用語の使用比率の比較

(1/2)

下位カテゴリー	(宗教用語)	日本 国内尺度に占める比率(%)		英語圏 英語圏尺度に占める比率(%)	比率差	Z検定結果
A-1	神,神仏,仏,氏神,神々 God, gods	49.3	<	83.9	34.6	T=5.00, p<.001
A-2	存在 being(s) a)	7.0	n.s.	14.3	7.3	
A-4	霊,魂,霊魂 spirit, soul	50.7	>	13.4	37.3	T=5.48, p<.001
A-5	悪魔,天使 devil, satan, angel	4.2	<	17.0	12.8	T=2.59, p<.01
A-6	子,聖霊,父 Son, Holy Spirit, Father	2.8	<	25.9	23.1	T=4.06, p<.001
C-1	罪,恩恵 sin, grace	12.7	<	31.3	18.6	T=2.87, p<.01
C-3	救い,救済 salvation	29.6	>	11.6	18.0	T=3.05, p<.01
D-1	聖書,経典 the Bible, Scripture	21.1	<	54.5	33.4	T=4.47, p<.001
D-2	宗教関係の本 religious literature	23.9	>	7.1	16.8	T=3.23, p<.001
E-1	(イエス·)キリスト Jesus (Christ)	7.0	<	41.1	34.1	T=5.01, p<.001
F-1	ミサ (Holy) Communion, Mass	1.4	<	9.8	8.4	T=2.24, p<.05
F-3	礼拝,法事 worship, religious service	35.2	n.s.	25.9	9.3	
F-4	教会に行く,参拝 Church going, attend worship	38.0	n.s.	34.8	3.2	
G-2	祈り,瞑想 pray, meditaiton	36.6	<	55.4	18.8	T=2.48, p<.05
H-1	キリスト教 Christianity	26.8	>	5.4	21.4	T=4.10, p<.001
H-2	教会,キリスト教会 Church	29.6	<	44.6	15.0	T=2.03, p<.05
H-3	仏教,神道 Jewish(religion),Muslim	9.9	n.s.	4.5	5.4	
H-4	寺(院),神社 synagogue,temple	56.3	>	5.4	50.9	T=7.73, p<.001
H-5	宗教 religion	73.2	>	52.7	20.5	T=2.77, p<.01
H-6	宗教団体,新宗教 congregation, religious group	22.5	n.s.	14.3	8.2	
I-1	信者,門徒,無宗教 believer, atheist	16.9	n.s.	8.0	8.9	
I-2	キリスト教信者 christian a)	1.4	<	18.8	17.4	T=3.52, p<.001
J-3	宗教的 religious	16.9	<	45.5	28.6	T=3.97, p<.001
J-4	科学 science	40.8	>	15.2	25.6	T=3.89, p<.001
J-6	奇跡 miracles	5.6	<	24.1	18.5	T=3.25, p<.001

(2/2)

下位カテゴリー	(宗教用語)	日本 国内尺度に占める比率(%)		英語圏 英語圏尺度に占める比率(%)	比率差	Z検定結果
K-1	自然,自然関連語 nature, 自然関連語	39.4	>	16.1	23.3	T=3.54, p<.001
K-2	創造 creation a)	5.6	n.s.	12.5	6.9	
K-4	超自然的 supernatural	5.6	n.s.	11.6	6.0	

a) being, christian, creation については, 日本の尺度との比較の観点から, その単語のみを数えた.

第2に, 宗教的存在概念について, 英語圏尺度では A-1 (God, gods) の使用比率が高い一方, 国内ではむしろ A-4 (霊, 魂, 霊魂) の使用比率が高かった. 聖典関連については, 英語圏では D-1 (the Bible, Scripture) の使用比率が高かった. 国内ではより一般的な表現である D-2 (宗教関係の本) の使用比率が高かった. 先に分析した通り, 国内尺度では "民俗的信仰・宗教行動" (下位カテゴリーL) が新たに追加され, 全尺度の約55%の尺度がこのカテゴリーに該当する用語を採用していた. これらのことを考え併せると, 端的に言って, "英語圏では神と聖書に関する宗教意識を問うが, 日本では霊魂と民俗的信仰に関する宗教意識を問う" という特徴を, ここで指摘することができよう.

第3に, C-1 (罪, 恩恵) は英語圏の方が高く, C-3 (救い, 救済) は国内の方が高い, という結果になった. 英語圏の C-1 は, 実際には "罪" の語の使用が多い (既述). このことから, 英語圏尺度は罪に関連した質問項目をたてる傾向が高い一方, 国内尺度は救済に関連した質問項目をたてる傾向にある, ということが示唆される. ここにも, 各宗教文化圏の差異が反映されている. すなわちキリスト教文化圏では, 人間の罪と神による恩恵に関する存在観念が宗教意識にとって看過しえない要素をなしているのに対し, 日本の宗教文化では,むしろ人間の救済に力点を置いた宗教意識が特徴となっており, このことが宗教用語の使用比率の差異としてあらわれた, と考えることができよう.

第4に，国内尺度では J-4（科学）の使用比率が英語圏尺度よりも高かった．このことは，科学と宗教との関係を問うことへの“こだわり”が日本において比較的強い，ということを示唆している．

第5に，英語圏尺度では J-3（religious）の使用比率が高いが，国内尺度では H-5（宗教）の語の採用率が高い，という結果になっている．これは，英語圏の宗教文化において，形容詞 religious が，religious belief, religious faith, religious literature, religious service, religious experience, religious group, religious preference, religious education といった複合語以外にも，多くの表現を有していることの反映である．一方，日本の宗教文化ではそのような複合語のヴァリエーションが少なく，むしろ“宗教”という単語1つで済ませてしまうことが多い，ということであろう．

第6に，国内尺度では K-1（自然，自然関連語）の使用比率が英語圏尺度よりも高い，ということが見いだされている．このことは，国内尺度が，宗教意識としての自然観を質問内容に含めることを重視してきたことのあらわれである，と解釈できよう．

自然に関連した用語に関する検討　次に，とくに分類 K（自然関連語）の差異に注目してみたい．この分類 K については，先に，各用語の使用文脈を検討し，意味的分類を行ったここでは，この分析にもとづき，注目される点を幾つか指摘したい．

Fig. 2 は英語圏尺度における自然関連語の意味的分類を，Fig. 3 は国内尺度における自然関連語の意味的分類を，それぞれ％で表示したものである（なお，英語圏尺度においては,同一アイテムに複数の意味的分類がみられたので，延べ数に基づいて算出している）．

これをみると，自然の語および自然関連語が使用される際，英語圏尺度では“神による創造”や“自然法則”，“超自然的存在，勢力，力”といった文脈で用いられることが多いのに対して，国内尺度では“自然霊”や“自然神”，あ

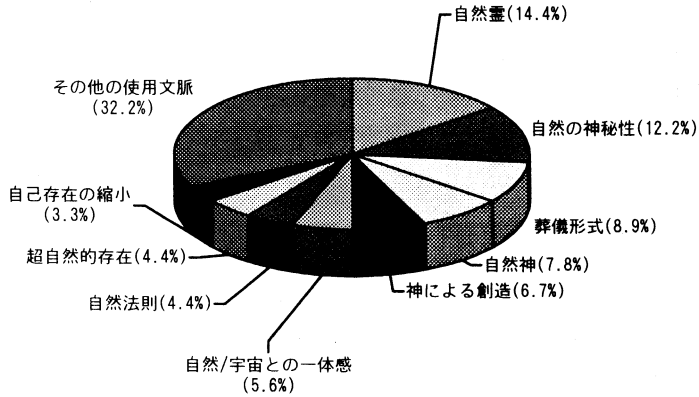

Fig. 2　国内尺度における自然関連語の意味的分類

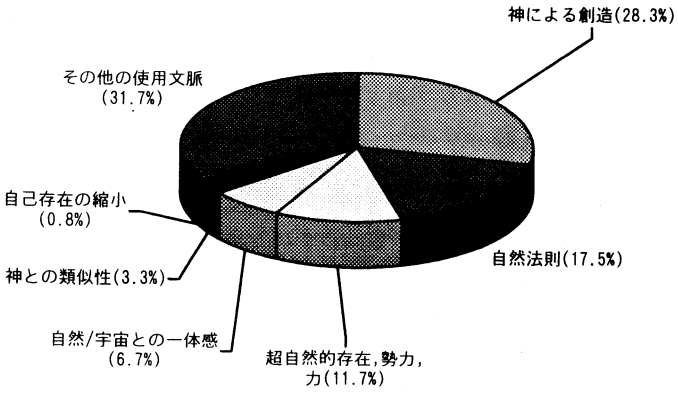

Fig. 3　英語圏尺度における自然関連語の意味的分類

るいは“自然の神秘性”,“葬儀形式”といった文脈で用いられることが多い,ということが分かる. nature と“自然”, 或いは“universe, space”と“宇宙”の語などを, さしあたって翻訳可能な語と捉えてみても,質問項目における使用文脈をみてみるとやはり, 差異があらわれている. “神による創造”という文脈で用いられる比率は英語圏尺度で 28.3 %であるのに対し, 国内尺度では 6.7 %であり,“自然法則”という文脈で用いられる比率は英語圏尺度で 17.5 %であるのに対し, 国内尺度では 4.4 %である. 一方,“自然霊”,“自然神”,“自然の神秘性”,“葬儀形式（自然葬)”といった文脈での使用は国内尺度においてのみみられる. これらのことから, 第 1 に, 英語圏の宗教性測定尺度が nature などの語を使用する場合には, 神によって創造された自然, 或いは, 自然法則という意味で用いつつ宗教意識を訊ねる傾向がみられるが, 国内尺度ではむしろ, 自然霊や自然神, 自然の神秘性, 自然葬に関する宗教意識を訊ねる傾向がみられる, という点を指摘することができよう.

第 2 に, 両者に共通して,“自然/宇宙との一体感”と“自己存在の縮小”という文脈で使用する質問項目がそれぞれみられる, という点を指摘することができる. この点は, 宗教的自然観を考える際にも大変重要な事実であると思われる. 自然および宇宙との連続性や一体感を質問内容に含めること, 或いは, 自然体験のなかでの自己存在の縮小体験 (e.g. 英語圏尺度では man fades into insignificance, 国内尺度では“へりくだった気持ちになる”) を質問内容に含めることは, その数はわずかであっても, 内外の宗教意識調査においてすでに共通してみられるわけである. ゆえに, 回答者の自然観を訊ねることによって宗教意識を測定するということは決して不自然なことではなく, むしろキリスト教文化圏においても日本の宗教文化圏においても共通した宗教性指標であり, それぞれの文化圏の特色を保ちながら, さらに追求してよい宗教性の 1 側面である, と考えられる.

まとめ 以上, 主として宗教用語の尺度に対する使用比率という観点から, 英語圏尺度と国内尺度との比較検討を行ってきた. もちろん今回の分析では, そもそも“宗教性測定尺度”としての条件が両者で著しく異なっている. とくに, 国内尺度では, 尺度数の少なさもあって, 時事的な問題を扱うことの多い社会調査を含めているが, 英語圏尺度には社会調査は含まれていない. また, 英語と日本語との対応関係が正確なものであるか (例えば,英語 believe, faith と日本語“信じる, 信仰”は対応関係にあるか, など), 用語の使用文脈の解釈は妥当なものであるか, などの問題が残されたままである. しかしながら, 各宗教文化圏の差異と共通項を浮き彫りにするという観点からは, 一定の成果がみられたように思われる. ここでは, これまで見いだされた特徴として以下の点を指摘しておきたい.

(1) 英語圏の宗教性測定尺度では, 神と聖書に関わる質問項目を設定する点を特徴とし, かつ, キリスト教に固有である用語が多用されている. 一方日本では, 霊魂観念と民俗的信仰に関わる質問項目を設定する点を特徴とし, (英語圏尺度の特徴である) 人間の罪と神による恩恵, 悪魔・天使に関する存在観念といった宗教意識よりは, 人間の救済に力点を置いた宗教意識を問うことが多い. これは, キリスト教文化圏と日本の宗教文化圏との差異の反映, と考えられる.

(2) 日本の尺度では, 自然および自然関連語の採用率が高い. このことは, 日本の宗教性測定尺度が, 宗教的自然観を質問内容に含めることを重視してきた, ということの1つのあらわれと考えられる. また, 用語の使用文脈をみると, 英語圏尺度では,“神による創造”や“自然法則”, “超自然的存在, 勢力, 力”といった文脈で用いられることが多いのに対して, 日本の尺度では“自然霊”や“自然神”, あるいは“自然の神秘性”, “葬儀形式 (自然葬)”といった文脈で用いられることが多い. こ

こにも，キリスト教文化圏と日本の宗教文化圏との差異があらわれている．

(3)一方，英語圏の尺度と日本の尺度との共通項として，その数は少ないながらも，“自然/宇宙との一体感”と“自己存在の縮小”の文脈での用語使用がみられる点を指摘することができる．これらの質問内容は，両文化に比較的共通した宗教的自然観の1指標とも考えられ，宗教心理研究の課題としてさらに注目されてよいだろう．

(4)また，日本の尺度では“科学”の語を採用する度合いが英語圏尺度よりも高い．科学と宗教との関係を問うことによって宗教意識を訊ねる傾向が日本にはあり，“科学へのこだわり傾向”とも考えられる．

おわりに

一般的にみて，日本の心理学研究では，多くの測定尺度が米国から取り入れられ，採用されてきたことは周知の通りである．しかしながら，宗教性測定尺度についてはこの限りではなかった．宗教文化圏の差異という問題が横たわっているからである．異なった宗教文化が営まれているそれぞれの文化圏では，各文化圏において妥当するような質問内容が採用される．それゆえ，或る宗教文化圏で使用される宗教性測定尺度が，別の宗教文化圏にそのままの形で適用されうるとは限らない．この点は，測定尺度の翻訳の問題には還元できない，宗教文化間の差異の問題である．本小論の分析が示すように，測定尺度の質問項目内容にまで踏み込んで検討することは，こうした宗教文化の差異というものを露わにさせる．それゆえ，日本の研究者にしてみれば，米国の宗教性測定尺度を参考にしようとしても，宗教文化の差異があまりにも大きいために，国内での翻訳使用を断念せざるをえなかったケースは多いであろう．そして結果的には，米国において多くの測定尺度の蓄積があるにもかかわらず，尺度の中身については吟味されることなく看過

されてきた，というのが国内の研究状況なのではないだろうか．

しかしながらやはり，英語圏と日本ではどの部分が異なるのか，ということを，条件をととのえた上で比較し，確認しておくことは必要である．というのは，日本の実証的宗教心理研究において現在求められているのは，一方において，宗教文化圏の差異を明確に認識したうえで各文化圏に特徴的な宗教性を浮き彫りにし，そしてまた一方では，各文化圏の共通項・普遍性の模索へとすすむ，そのようなあり方である，と考えられるからである．たしかに，今回の分析が示したように，（ユダヤ・）キリスト教文化圏と日本の宗教文化圏では，神観念，罪と救済の重要度，教典の重要度，自然観など，それぞれの特徴が浮き彫りになっている．両者の差異は明確に認識しておかねばならない．この認識にたって，さらに次に，どのような共通項を宗教性の指標として探求していくことが，より普遍的な指標に近づくことになるのだろうか，と問うていくことが必要であろう．

注

（注１）なお，今回の分析では基本的に，宗教用語の単語数に与える語形の影響は考慮されていない．例えば形容詞形も動詞形もない単語（God, Jesus など）と，名詞形がある単語（believe, pray など）や形容詞形がある単語（sin, grace など）では，他の品詞形が多い単語の方がカウント数として多くなるので，厳密にいえば，品詞を揃えて数えなければ条件が一定しない．一方，或る用語が名詞であるか動詞であるかなどは，使用される文章の文法構造に依存しているという側面もある．そこで，今回の分析では，この点についての配慮は行わないことにし，或る単語が他の品詞形をとるか，或る単語がどのような品詞であるか，などについては特別な事情がない限り，考慮しないこととした．

引用・参考文献

会沢勲　1993　青年の宗教意識（第Ⅰ部）－宗教心理学の方法論と調査資料編　四国学院大学論集, 84, 129-158.

安藤延男　1962　宗教的情操の因子分析的研究　教育・社会心理学研究, 3 (2), 54-63.

安藤延男　1963　宗教的情操尺度の標準化－主としてキリスト教の立場から　教育・社会心理学研究, 4 (2), 143-155.

安藤延男　1965　宗教的行為インベントリーの標準化－とくに基督教との関連における　教育・社会心理学研究, 5 (1), 61-73.

朝日新聞社　1981　全国世論調査（調査結果のみ. 同 1995 参照）

朝日新聞社　1995　全国世論調査（9月23日付朝刊）

深谷和子・石川洋子・山根はるみ　1994　調査レポート－おばけとジンクス　深谷昌志・深谷和子（監修）モノグラフ・小学生ナウ（ベネッセ教育研究所）, 3 (4), 6-30.

深谷昌志・木下勉・吉川杉生・大野道夫・尾澤弘恒　1997　高校生にとっての生と死　深谷昌志・深谷和子（監修）モノグラフ・高校生（ベネッセ教育研究所), 51, 4-75.

橋本良明・福田充・辻大介・石井健一・見城武秀・森康俊・水野博介　1995　大学生におけるオウム報道の影響と宗教意識－関東圏7大学および学生信徒アンケート調査から　東京大学社会情報研究所調査研究紀要, 6, 12-84.

林知己夫　1981　日本人研究三十年　至誠堂

林信男・川崎正明　1981　青少年の宗教意識調査　キリスト教主義教育, 9, 157-193.

林信男・佐藤市郎・川崎正明　1985　続・青少年の宗教意識調査　キリスト教主義教育, 13, 241-329.

Hill, P. C. & Hood, R. W. Jr. (eds.)　1999　Measures of religiosity　Alabama: Religious

Education Press

家塚高志　1956　宗教性の測定とその統計的研究についての一つの試み　宗教研究, 149, 130-150.

今井孝太郎（研究代表）1973　宗教の心理学的研究－宗教性インベントリィ標準化のために　龍谷大学仏教研究所紀要, 12, 59-82.

井上順孝（研究代表）2000a　現代日本における宗教教育の実証的研究　平成10年度～11年度科学研究費補助金基盤研究（C)(1) 研究成果報告書

井上順孝（編）2000b　日韓学生宗教意識調査報告　国学院大学日本文化研究所

石黒彭二　1985　児童青年の宗教意識における性差と地域差　愛知学院大学文学部紀要, 14, 1-28.

石黒彭二・酒井亮爾・山田ゆかり　1988　中学生の宗教意識と家の宗教との関係　禅研究所紀要, 16, 187-203.

岩井阿礼　1998　宗教はアイデンティティの係留点になりうるか－宗教がアイデンティティ形成に果たす役割に関する経験的研究　平和と宗教, 17, 106-116.

岩水竜峰　1977　青少年の宗教意識について（その２）－参禅会を通してみた直系家族と核家族の青少年にみられる宗教的関心の比較　岐阜女子大学紀要, 6, 1-14.

岩水竜峰　1978　青少年の宗教意識について（その３）－参禅会参加経験回数による意識の変化差　岐阜女子大学紀要, 7, 17-27.

金児暁嗣　1997　日本人の宗教性－オカゲとタタリの社会心理学　新曜社

北川直利　1988　「ミッションスクール」の宗教社会学－カトリック学校の教職員の意識調査から（その１）日本私学教育研究所紀要, 23 (1), 185-218.

こども調査研究所（編）1987　子ども調査資料集成・第２集　子ども調査研究所

黒田輝彦・井上佳朗・片平眞理　1995　大学生の死後観に関する研究　鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集, 42, 53-76.

葛谷隆正　1966　学生層と成人層との宗教的好悪に関する比較研究　熊本大学教育学部紀要（２人文科学）, 14, 96-103.

葛谷隆正　1967　学生層と勤労青年との宗教的意識・態度・行動および好悪に関する比較研究　熊本大学教育学部紀要（２人文科学）, 15, 98-105.

葛谷隆正　1968　農村青年と都市勤労青年との宗教的意識・態度・行動および好悪に関する比較研究　熊本大学教育学部紀要（２人文科学）, 16, 68-76.

葛谷隆正　1969　都市と農村の青少年の宗教的関心に関する比較研究　熊本大学教育学部紀要（２人文科学）, 17, 63-76.

毎日新聞社　1986　全国世論調査（1月4日付朝刊）

毎日新聞社　1991　全国世論調査（1月4日付朝刊）

真野一隆　1977　私学の女子高校生の宗教観・価値観・倫理道徳観と学業成績との関係について　日本私学教育研究紀要, 13 (1), 311-339.

増谷文雄（編集代表）1975　現代青少年の宗教意識　鈴木出版

溝口靖夫・雀部猛利・難波紋吉　1962　キリスト教主義女子大学学生の宗教意識についての実証的研究－１　神戸女学院大学論集, 8 (3), 25-43.

溝口靖夫・雀部猛利・難波紋吉　1963　キリスト教主義女子大学学生の宗教意識についての実証的研究－３　神戸女学院大学論集, 9 (3), 65-107.

中村雅彦　1995　大学生のｵｶﾙﾄ信仰に関する研究－オカルト信者の社会心理学的特性と超心理教育による社会観の変容　愛媛大学教養部紀要, 28 (1), 29-55.

中村陽三　1975　青年期における宗教性の成長に関する実証的研究－北星学園における事例研究　日本私学教育研究所紀要, 10 (1), 355-374.

中村陽三　1976　青年期における宗教意識に関する実証的比較研究－公立校生徒とキリスト教学校生徒との比較　日本私学教育研究所紀要, 11 (1), 157-177.

中村陽三　1977　青少年の宗教意識に関する実証的研究－少年期における比較研究　日本私学教育研究所紀要, 13 (1), 341-362.

NHK放送世論調査所（編）1984　日本人の宗教意識　日本放送出版協会

NHK放送文化研究所（編）2000　現代日本人の意識構造　第５版　日本放送出版協会

日本連合教育会（編）1966　宗教的情操涵養の方策　日本連合教育会

日本世論調査会　1995　宗教世論調査（7月9日付高知新聞朝刊）

西脇良　2002　カトリック学校に通う学生の宗教意識－宗教意識調査の結果報告　白百合女子大学キリスト教文化研究論集, 3, 85-104.

Nishizawa Satoru　1997　The religiousness and subjective well-being of Japanese students －2 psychology of religion　北海学園大学学園論集, 91, 53-80.

西沢悟　1998　宗教心理と精神健康－現代大学生について　北海学園大学学園論集, 96・97, 1-65.

小川美香　1999　大学生における生き方と宗教的な心の支えとの関連　追手門学院大学心理学論集, 7, 9-17.

柴田道賢　1967　大学新入生の宗教心について－駒大法・経済学部生を対象として（第１回調査報告）　宗教学論集, 1, 57-88.

柴田道賢　1968　大学新入生の宗教心について－駒大法・経済学部生を対象として（第２回調査報告）宗教学論集, 2, 105-134.

総務庁青少年対策本部（編）1999　世界の青年との比較からみた日本の青年－第6回世界青年意識調査報告書

杉山幸子　1993　宗教心の多元性について－性, 年齢, 入信年数による検討　社会心理学研究, 9 (1), 13-21.

田島忠篤　1992　宗教系高等学校生徒の‘宗教意識’調査結果について　明の星女子短期大学紀要, 10, 71-95.

高木秀明・吉田冨二雄・森美奈子　1987　現代大学生の宗教意識　日本心理学会第51回大会論文集, 544-545.

高木きよ子　1952　宗教的態度の比較調査－日米両国学生を調査対象として宗教研究, 130, 81-109.

統計数理研究所国民性国際調査委員会（編） 1992　第5日本人の国民性－戦後昭和期総集 出光書店

統計数理研究所国民性国際調査委員会（編） 1998 国民性七か国比較 出光書店

牛島義友（編著） 1961　西欧と日本の人格形成　金児書房

山縣喜代　1999　現代日本女性の生き方－宗教的・倫理的価値意識と心情　ミネルヴァ書房

山崎昭見　1966　龍大生の宗教意識と処世態度の調査　龍谷大学論集, 381, 95-120.

読売新聞社　1952　全国世論調査（10月22日付）

読売新聞社　1965　全国世論調査（1月1日付）

読売新聞社　1969　全国世論調査（10月16日付）

読売新聞社世論調査部　1989　全国世論調査（1989年9月）属性別集計表

読売新聞社世論調査部　1994　全国世論調査（1994年6月）属性別集計表

読売新聞社世論調査部　1995　全国世論調査（1995年6月）オウム真理教関連特別集計表